

# 2017

共立女子大学・共立女子短期大学

## 独自の取り組み



共立女子大学・共立女子短期大学

## はじめに

共立女子大学・共立女子短期大学

学長 入江 和生

教育機関としての大学の最も中心的な部分が授業およびそれに付随する論文指導などいわゆる正課であることは言うまでもありません。それについての詳細は本学広報誌『オフィシャル・ガイド』や各学部・学科で発行している広報誌に記載されています。ここでは、教育を支え、その効果をより高めるために、本学ではどのような独自の取り組みをしているかを、客観的な「事実」に基づいて説明しています。独自といっても、他の大学でも類似の取り組みをしているものもありますが、本学においてはどこが特徴的なのかをわかりやすく書いたつもりです。

なお、大学運営や入学試験に関わる事項についてはここでは取り上げていません。お目通しいただければ幸いです。

# 目次

## 家政学部

1

I 被服学科	1
1 和の文化を体験・伝承する授業と取り組み	1
2 個性的・創造的な表現を追求する「卒業制作発表会」	1
3 研究成果を披露する「卒業論文・制作・演習発表会」	1
4 化粧品分野の新カリキュラム	1
5 綿の栽培と教育への活用の試み	1
II 食物栄養学科	2
1 フレッシュマンキャンプ	2
2 日本料理・西洋料理学外研修	2
3 食物学特別講演会	2
4 卒業論文・卒業演習発表会	2
III 建築・デザイン学科	2
1 設計演習合同講評会	2
2 建築とデザインの融合	2
3 建築とインテリアの融合	3
4 越後妻有アートトリエンナーレ	3
5 雪旅籠の灯り（ゆきはたごのあかり）	3
6 プロダクトデザイン展	3
7 毎日広告デザイン賞の応募・学内展示	3
8 MSC（海洋管理協議会）とのデザイン・コラボレーション	3
9 デザインコース 共立祭展示	3
10 デザインコース卒業制作学内展・学外展	3
IV 児童学科	4
1 発達相談・支援センター	4
2 乳幼児親子グループ「さくらんぼ」	4
3 共立大日坂幼稚園	4
4 児童学科海外研究旅行	4
5 保育研修会	4
6 就職・進路ガイダンス	4
7 卒論発表会	4

## 文芸学部

5

I 学ぶ	5
1 講座	5
2 動画を活用した授業	5
3 十二単着装の見学	5
4 ゼミ展	5
II 読む	6
1 ブックマラソン	6
2 リーディング・マラソン (Reading Marathon)	6
3 プレジール・ドゥ・リール (Plaisir de lire)	6

Ⅲ	究める	6
1	日本文学研究旅行	6
2	造形芸術研究旅行	6
3	フランス語フランス文学コース研究旅行	7
4	源氏物語研究会	7
5	文芸メディア研究集会	7
6	「私が読んだ一冊」ポスター発表	7
Ⅳ	楽しむ	8
1	「フランス語劇」上演	8
2	合同観劇会	8
Ⅴ	称える	8
1	さくら賞	8
2	マリアヌヌ賞	8
3	文教賞	8
4	すみれ賞	9
5	プリマヴェーラ賞	9
6	英語英米文学コース卒業論文報告会	9
7	絵画卒業制作・学外展	9
Ⅵ	伝える	9
1	『文藝学部報』	9
2	『K-RITS』	9
3	『櫻雲』	10
4	「卒業論文・卒業制作概要集」	10
5	「私の授業を振り返って」	10
6	『文学芸術』	10
Ⅶ	出会う	10
1	「OG ネットワーク」によるキャリア支援	10
2	桜会展	10

## 国際学部

11

Ⅰ	新しいカリキュラムーGSE (Global Studies in English)	11
1	GSEの取り組み	11
2	GSEのゼミの学外研修	11
Ⅱ	長期留学	11
1	留学生	11
2	留学で取得した単位の認定	11
Ⅲ	国際学部短期語学研修プログラム	12
1	州立ワシントン大学	12
2	ウィニペグ大学	12
3	ダブリン・シティ大学	12
4	ザールラント大学	12

IV	国際交流	12
1	フルブルライト招聘講師	12
2	海外研究旅行	13
3	学生の国際交流	13
4	教員による研究交流	13
V	教育プラスアルファ	14
1	さまざまな授業形態	14
2	活発なゼミ活動	14
3	学部講演会	15
VI	就職活動支援	15
1	マナー講習会	15
2	マイナビの講演会	15
VII	刊行物	15
1	『国際学部リブレット』	15
2	『はなみずき』	15

## 看護学部

16

I	カリキュラムの特徴	16
1	カリキュラムの全体像	16
2	充実した「専門展開科目」	16
3	客観的臨床能力試験（OSCE）の実施	16
II	看護学部7領域の取り組み	16
II-1	基礎看護学	16
1	基礎看護学とは	16
2	基礎看護学の授業、演習、実習	17
3	看護学実習室	17
II-2	小児看護学	17
1	小児看護学の特徴	17
II-3	母性看護学	17
1	母性看護学の特徴	17
2	母性看護学演習で学ぶ看護過程	17
3	母性看護学演習で学ぶ看護技術	17
II-4	成人看護学	18
1	成人看護学の概要	18
2	急性期・回復期ケア	18
3	慢性期・終末期ケア	18
II-5	高齢者看護学	18
1	高齢者への理解を深める「高齢者看護学概論」	18
2	実践へつなぐ「高齢者看護学援助演習」	18
3	地域で暮らす高齢者の支援から学びを始める「高齢者看護学実習」	18
II-6	精神看護学	19
1	「精神看護学概論」での精神障害の当事者をお招きした特別講義	19
II-7	地域・在宅看護学	19
1	時代のニーズに応える地域・在宅看護学教育	19
2	産業保健活動の実践現場体験	19
3	最先端の在宅医療機器を用いた医療機器管理演習	20
4	地域連携を基盤とする地域看護診断演習	20

Ⅲ 学生生活	20
1 新入生歓迎交流会の開催	20
2 学生・教員懇談会の開催	20
3 すずらん祭りへの参加	20
4 「さくら通信」の発行	20
Ⅳ キャリア支援と国家試験対策	21
1 新3年生対象キャリア支援	21
2 新4年生対象キャリア支援	21
3 看護師国家試験対策	21
Ⅴ 教育推進のために	21
1 実習運営合同会議の開催	21
2 共立女子大学看護学雑誌の発行と看護学研究会の開催	21

## 生活科学科

22

I 正課の教育	22
1 卒業研究・卒業制作	22
2 卒業研究・卒業制作要旨集	22
3 実践教育	22
4 学外学習	22
5 リテラシー教育	22
6 短期大学共通講座	22
II 正課のキャリア支援	22
1 チャレンジ・ゼミナール	22
2 キャリアを考える	22
3 キャリアアクティブワーク	23
4 秘書実務	23
5 編入体験報告会	23
6 個人別ポートフォリオ	23
III 正課外のキャリア支援	23
1 社会人としてのマナー講座	23
2 SK-II スキンケア講座	23
3 自分育成力講座	23
4 インターンシップ研修	23
5 就活トークイベント 在学生編	24
6 就活トークイベント OG編	24
IV 優秀学生の表彰	24
1 授業内作品・発表・レポート	24
2 卒研要旨集表紙・ポスターの原画デザイン	24
3 卒業研究・卒業制作発表	24
V 資格	25
1 フードスペシャリスト	25
2 惣菜管理士	25
3 CAD利用技術者基礎	25
4 プロダクトデザイン検定	25
5 マルチメディア検定	25

I	正課でのキャリア支援	26
1	キャリアデザイン演習	26
2	秘書実務を学ぶ	26
3	観光英語を学ぶ	26
II	正課外でのキャリア支援	26
1	学生スタッフ	26
2	OGトークイベント	26
3	「内定者トークイベント」	26
4	「進路Tea Party」	26
5	「編入トークイベント」	26
III	リテラシー教育	27
1	リテラシーポイント	27
2	千字エッセイコンテスト	27
3	英語スピーチコンテスト	27
4	読書レポート	27
IV	特徴的な施設と活動	27
1	文科読書室	27
2	読書室委員	27
3	読書室活動	27
4	「ブックパーティ」	28
5	自習室	28
V	学生支援	28
1	学習カルテ	28
2	『文科GUIDANCE』	28
3	何でも学習相談コーナー	28
VI	学生と教員の交流	28
1	地方出身者懇談会	28
2	クリスマス会・クラス会	28

I	教育システム	29
1	小さな総合大学	29
2	全学共通教育科目	29
3	KALECO	29
4	基礎を作る	29
5	ネイティブ教員による英語科目	29
6	プレイスメントテスト	29
7	FD研修会	30
8	臨時講師	30
9	助手制度	30
10	ゼミナール研究旅行	30
11	総合文化研究所	30
12	女性学	30
13	履修中止制度	30

II	ITによる教育支援	31
1	kyonet	31
2	グーグル・アップス	31
3	共立シラバス	31
4	出席管理システム	31
5	クリッカー	31
6	学内限定 Google+ (グーグル・プラス)	31
7	インフォメーションPC	31
8	e-learning英語塾	32
9	情報センター	32
III	正課外教育	32
1	正課外活動評価制度	32
2	自己開発単位認定	32
3	英会話ルーム	32
4	共立祭運営委員会宿泊研修	32
5	共立祭企画評価	32
6	共立アカデミー	32
7	入学前教育	32
8	リーダーシップ研修会	32
9	チームワーク研修	33
10	講演会	33
IV	学生生活支援	33
1	奨学金	33
2	実務体験奨学金	33
3	学内アルバイト	33
4	学生相談室教員相談員	33
5	キャンパスハラスメントへの対応	33
6	デジタルサイネージによる情報発信	33
7	学生生活実態調査	33
V	学生関連施設	34
1	学生寮	34
2	研修センター	34
3	八王子キャンパス	34
4	戸田艇庫	34
VI	障がいのある学生への支援	34
1	ノートテイク講習会	34
2	点字サービス	34
3	バリアフリー	34
4	支援チーム	34
VII	学生の活動	35
1	共立祭	35
2	新入生歓迎会	35
3	学内レガッタ	35
4	共立音楽祭	35
5	学生プロジェクト	35
6	伝統文化企画	35
7	美術館・博物館キャンパスメンバーズ	35

VIII	保護者との連携	36
	1 新入生保護者説明会	36
	2 在学生家族懇談会	36
	3 授業見学会	36
	4 kyonet保護者アカウント	36
	5 後援会	36
IX	図書館・博物館	36
	1 KWU分類による配架	36
	2 デジタル図書館	36
	3 ラーニング・commons	36
	4 学習支援プロジェクト	37
	5 共立Stand+Up!プロジェクト	37
	6 学生図書委員会	37
	7 共立女子大学博物館	37
X	就職支援	37
	1 面談記録	37
	2 進路ガイダンス	37
	3 キャリアカウンセラー	37
	4 卒業生との懇談会	37
XI	環境問題	38
	1 環境学習	38
	2 エコ照明	38
	3 ビオトープ	38
	4 雨水利用	38
	5 省エネルギー	38
XII	防災	38
	1 防災訓練	38
	2 緊急避難訓練	38
	3 防災設備	38
	4 災害用備蓄品	38
	5 千代田区との防災協定締結	39
	6 安否確認テスト	39
	7 災害時対応マニュアル	39
XIII	国際交流	39
	1 国際交流委員会	39
	2 国際交流室	39
	3 留学制度	39
	4 交換留学	39
	5 イナルコ大学 (交換留学・フランス)	39
	6 ジュネーブ大学 (交換留学・スイス)	39
	7 中国人民大学 (交換留学・中国)	40
	8 派遣留学 (全学対象)	40
	9 アメリカ・セントラルワシントン大学 (派遣留学・アメリカ)	40
	10 ウィニペグ大学 (派遣留学・カナダ)	40
	11 リーズ大学 (派遣留学・イギリス)	40
	12 オックスフォード・ブルックス大学 (派遣留学・イギリス)	40
	13 バーミンガムCIC (派遣留学・イギリス)	40
	14 私費外国人留学生授業料減免制度	40
	15 国際交流奨学金	40

16	櫻友会TOEIC奨励奨学金	40
17	夏季海外研修（全学対象）	41
18	ハワイ大学カピオラニカレッジ（夏季海外研修・アメリカ）	41
19	北京大学（夏季海外研修・中国）	41
20	アンジェ西部カトリック大学（夏季海外研修・フランス）	41
21	春季海外研修（全学対象）	41
22	クイーンズランド大学（春季海外研修・オーストラリア）	41
23	海外インターンシッププログラム（上級者用プログラム）	41
24	ペンシルベニア大学協定校派遣留学（上級者用プログラム）	42
25	国内留学プログラム　－ブリティッシュヒルズプログラム【宿泊型】	42
26	国内留学プログラム　－国内英国留学 in Kyoritsu【通学型】	42
27	日本語教育プログラム	42
28	国際交流チューター制度	42
29	留学生懇談会	42
30	KJE (Kyoritsu Japanology in English)	42
31	外国人科目等履修生	42
32	フルブライト訪問団	43
33	『共立インターコム』	43
34	中国	43
35	ベナン共和国	43
36	インドネシア	43
<hr/>		
XV	社会との連携	43
<hr/>		
1	共立講堂	43
2	公開講座	43
3	活字文化特別セミナー	43
4	ボランティア情報コーナー	44
5	映画テレビ撮影協力	44
6	パープルリボンプロジェクト	44
7	立地との関わり	44
8	地域連携委員会	44
9	東京オリンピック・パラリンピック	44
10	千代田学	44
<hr/>		
XV	卒業生との連携	45
<hr/>		
1	『共立女子学園報』	45
2	共立生涯メール	45
3	櫻友会	45
4	教員免許状更新講習	45

## I 被服学科

### 1 和の文化を体験・伝承する授業と取り組み

#### (1) 伝統をつなぐ

共立女子大学の所蔵品の中でも着物関連の作品は大変充実しています。被服学科では、世界的に著名な先生の指導のもとに、それらの作品を実際に手にふれて体験できる授業や研究を行っています。2016年度は、五島美術館(東京都世田谷区)と授業協定を結び、同美術館所蔵「金屏風を収める収納袋」の制作に取り組みました。学生は現場での作品調査や屏風の保護・保存に対するプレゼンテーションを経て収納袋の制作を行いました。この文化財保護・保存についての実践的取り組みは学生にとって貴重な機会となりました。



#### (2) 浴衣スタイリングショー

7月に「神田明神」(千代田区)との地域連携事業および産学連携事業の成果として、およそ20名の学生が自らデザイン・制作した浴衣を着て、「2016浴衣スタイリングショー」を開催しました。日本の伝統文化である着物をファッションの視点で捉え、デザイン・制作・表現の各プロセスを学ぶことを目的に、江戸の文化と伝統を受け継ぐ「神田明神」との交流をすすめ、社殿見学・博物館見学・講話受講・作法習得などを行ってきました。「神田明神」のイメージから発想したデザインをもとに、協賛の帝人フロンティア(株)ならびに豊島(株)に浴衣の反物を提供いただき、浴衣を制作いたしました。



### 2 個性的・創造的な表現を追求する「卒業制作発表会」

被服造形に関する知識と技術を生かして4年生では1年間をかけてウェディングドレス、ワンピース、オリジナルデザインの衣装や服飾雑貨、小紋や訪問着などの和服の制作をして卒業制作発表会で発表します。最近では、ウェアラブルコンピュータを活用した衣装など、個性的・創造的なテーマの作品が制作されています。ファッションショーの演出や運営もすべて学生が担当し、協調作業を通して主体的に問題を発見し解を見出すアクティブ・ラーニングの場としても重要な役割を果たしています。



### 3 研究成果を披露する「卒業論文・制作・演習発表会」

卒業論文・制作・制作発表会では、被服学に関する様々な専門分野に関して1年を通して携わった研究成果を口頭でのプレゼンテーションやパネルを用いたポスターセッションで発表しています。学術的また実務的な視点からの研究は、多種多様な分析方法を用いて、それぞれの研究分野の特徴を捉えています。斬新なビジネスプランや新素材研究など、被服学の未来を予感させる研究が進められています。



### 4 化粧品分野の新カリキュラム

学生からも開講要望の高かった化粧品分野の新しい授業「化粧品科学概論」と「コスメティック・マーケティング論」が2016年度からスタートしました。皮膚の構造や化粧品の成分といった科学的知識から、化粧品市場の概況、ブランドの宣伝・販売戦略、化粧心理まで、化粧・化粧品について、正しい知識を身につけ、将来の仕事や自分自身の生活に活かせる内容であり、学生も興味深く、熱心に受講しています。



### 5 綿の栽培と教育への活用の試み

Tシャツやデニム製品などの素材として私たちの身の回りに多用されている綿(めん)ですが、それがアオイ科の植物であるワタの種子に生えている綿毛(わたげ)であることはご存知でしょうか? 意外と実物を見たことがない人が多いようです。そこで、被服材料研究室では、実際にワタを育てて教育・研究に活用することを試んでいます。写真はワタの苗ですが、夏にはハイビスカスに似た花が咲き、秋には実が割れて真っ白な綿毛が飛び出してくる様子が観察できます。実物を見て触って実感する教育に活用しています。



## II 食物栄養学科

### 1 フレッシュマンキャンプ

毎年、新入生を対象にオリエンテーションを兼ねたフレッシュマンキャンプ（1泊2日）を本学の研修センター河口湖寮で行っています。新入生に対し学科の全教員と助手4名、4年次学生のオリター4名が、共立での大学生活について細部にわたり説明し、フレッシュマンの不安を取り除くとともに、親睦を深めることを目的としています。新入生同士や教員・助手と知りあえる貴重な機会となっています。



6

### 2 日本料理・西洋料理学外研修

日本料理、西洋料理の作法を学ぶために学外研修を行っています。日本料理学外研修会は「つきぢ田村」で、西洋料理研修会は「帝国ホテル」で行っています。日本料理研修会では、料理の基本をプロの料理人から講義していただき、和食の伝統を学んでいます。西洋料理研修会では、マナーを中心とした講義をしていただいています。毎年、多くの学生が参加し、美味しい料理を堪能しています。



### 3 食物学特別講演会

学外から講師をお招きして、特別講演会を毎年開催しています。食物の話題に限らず、その道の専門家の方をお呼びしています。この講演会は、正課外活動の一環として位置づけています。学生だけでなく、教員にとっても有意義な講演会となっています。



### 4 卒業論文・卒業演習発表会

4年間の集大成として、毎年1月末に、卒業論文・卒業演習発表会を行っています。学生が主体的に企画・運営することが特徴です。1年間、それぞれのテーマについて研究、調査を重ね、学会発表としても十分に通用する発表が多く見受けられます。卒業論文・卒業演習は、食物学専攻では必修科目です。管理栄養士専攻では選択科目ですが、毎年9割を超える学生が選択しています。



## III 建築・デザイン学科

### 1 設計演習合同講評会

建築コースでは、通常の授業とは別に、2月に各学年の優秀作品を集め、現役建築家をゲストクリティックに迎え合同講評会を行っています。設計演習は基礎から始まって住宅、公共的な施設と順を追って規模も大きく、内容も複雑になるように設定されています。建築・インテリアの設計は経験がない空間をつくるのが多く、また解答がない作業です。そのため他学年の作品を見ることはこれからの心構えにもなりとても有効です。



### 2 建築とデザインの融合

建築・デザイン学科は人の生活に必要な「空間」・「もの」を創る建築コース（建築分野、インテリア分野）とデザインコース（プロダクト分野、グラフィック分野）で構成しています。学科のコンセプトである2つのコースの融合を具体化するため、1つ現実のテーマを設定し、そのテーマに対してコース・分野を越えたプロジェクトチームを組織し演習を行っています。現地調査・リサーチによる多視点での物事の把握、他分野とのブレインストーミングにより実践的な創作活動をチーム毎で行っています。



### 3 建築とインテリアの融合

建築コースは、「建築分野」と「インテリア分野」の2つの分野で構成されているのが特徴のひとつです。しかし、建築とインテリアは切っても切れないものです。そのため、1年の基礎と2年の前期は建築からインテリアまでトータルに設計出来るように各分野同一の課題とし、2年の後期から各分野にわかれ専門性に特化したものとしています。特に1年と2年の前期は建築を学ぶ上での基礎でとても重要なフェーズのため、他の課題より多くの教員を集中して配置して指導を行っています。



### 4 越後妻有アートトリエンナーレ

新潟県越後妻有（えちごつまり）で3年毎に行われるアートトリエンナーレに建築コースの教員・学生が参加しています。



2009年には、小出にある廃屋の民家を「うつすいえ」として再生しました。この家を過疎化が進む小出の集落の活動の場とし、村の人々との交流を図るとともに地域の活気を作り出すことを目的に、継続してワークショップを行っています。

### 5 雪旅籠の灯り（ゆきはたごのあかり）

建築コースでは、山形県西川町 月山・志津温泉でまちおこしの一環として開催している行事に学生と教員が参加しています。雪で旅籠を作り、昔の志津温泉の街並みを再現するこのイベントは、毎年県内外からたくさんの来場者が訪れます。学生は地元の方々との交流を深めながら、建築の構造や光環境について体験しながら学んでいます。



### 6 プロダクトデザイン展

デザインコースでは、毎年JIDA（公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会）の展示室（六本木アクシスビル）を借りて、建築・デザイン学科におけるプロダクトデザイン作品の展示を実施しています。2年生から4年生までの演習課題で優秀作品となったものが中心になります。プロダクト演習の基礎、演習I、II、IIIのほか、青木/福田ゼミナール、木工演習、金工演習の作品も含まれます。学外展示の利点として、他のデザイン関係者の目に触れる機会があるほか、共立女子大学の広報にもなるため、意義ある活動となることを期待しています。



### 7 毎日広告デザイン賞の応募・学内展示

毎日広告デザイン賞は長い歴史のあるデザイン賞で、若いデザイナーの登竜門ともなっています。第79回～83回とグラフィック分野の学生が全員参加しています。応募した作品の学内展示も行っています。



### 8 MSC（海洋管理協議会）とのデザイン・コラボレーション

MSCは減少傾向にある世界の水産資源の回復を目指し、1997年にイギリスで設立された国際NPOです。デザインコースとMSC、そして流通のイオンとのコラボレーションで、学生はポスターやPOPの制作をして、展示会やイオンの店舗で毎年発表を行っています。



### 9 デザインコース 共立祭展示

デザインコースでは、毎年10月中旬に神田一橋キャンパスで開催する共立祭において、作品展示を実施しています。3年生による各ゼミの課題作品や4年生による演習課題作品が主な展示の内容となり、生活者の視点を大切にしたい幅広いデザインが並びます。学生が日頃一生懸命取り組んだ作品の発表の場を設け、より多くの学生及び関係者、受験者にみていただく機会を提供しています。



### 10 デザインコース卒業制作学内展・学外展

デザインコースでは、毎年1月中旬に本館1階ロビーにて卒業制作・卒業論文の学内発表展示をしています。一人ひとりの学生がこれまで学んだことの集大成として、作品や論文に取り組んだ成果です。デザインは芸術と異なり、社会に役立つ、人に役立つ事を目的としています。どのような問題提起がなされ、デザインでどのような解決が提案されているのか、それぞれの学生の思いが伝わります。



また、学生有志の自主活動により、学外会場で卒業制作・論文展が開催され、より多くの人々に展示を見ていただくチャンスを作っています。

## IV 児童学科

### 1 発達相談・支援センター

児童学科では、学科付設の「発達相談・支援センター」において、地域に開かれた発達・教育相談、子どものためのアート活動などを随時実施して子育て支援を行っています。それらの活動の記録は、継続的に実施されている子育て支援等の研究報告とともに、毎年発行される「発達相談・支援センター報告書」に掲載されます。

### 2 乳幼児親子グループ「さくらんぼ」

学科付設「発達相談・支援センター」の活動の一環である乳幼児親子グループ「さくらんぼ」は、未就園児の親子のみなさんが、児童学科の教員・学生スタッフとともにゆったり遊ぶグループです。1グループ12組の親子が参加され、現在は3グループが活動中です。学生スタッフは大学院生・4年生・3年生で、活動計画・準備から保育、そして保育後の反省会まで主体的に参加しています。



### 3 共立大日坂幼稚園

本学に併設されている共立大日坂(きょうりつ・だいにちざか)幼稚園と密接な連携を保っています。児童学科学生の幼稚園教育実習、学生の幼稚園行事でのボランティア活動、児童学科教員と幼稚園教員による園内研修、児童学科教員による園児の保護者対象の講演会や教育相談などを行っています。



### 4 児童学科海外研究旅行

児童学科で実施する海外研究旅行では諸外国の保育・幼児教育の施設を訪問し、保育者としての幅広い知識・技術を修得することで、保育者となるための意識をさらに高めることを目指しています。

近年では、平成26年度にデンマーク、平成25年度にスウェーデンへ赴きました。



### 5 保育研修会

毎年8月初旬に保育研修会を開催しています。参加者は主に本学卒業生の現職保育者ですが、卒業生以外の保育者や一般の地域住民も参加することができます。内容は絵本作家による講演会や保育の現代的課題をテーマとした分科会などです。現職者にとっては学び直しのよい機会であり、保育者のネットワーク作りにも役立っています。



### 6 就職・進路ガイダンス

毎年、4月、7月、12月に、3、4年生を対象として、保育者や小学校教員になるための就職・進路ガイダンスを開催しています。教員や就職進路課からの説明のほかに、就職試験に合格した学生による体験談、また、現職の卒業生による講話などを実施しています。



### 7 卒論発表会

3年次の課題ゼミと4年次の卒業研究の2年間の集大成として、卒業論文発表会を毎年1月に開催しています。発表会の運営は3年生と4年生の卒業研究発表会担当者を中心に学生によってなされます。卒業研究のなかから、毎年、2人程度が保育者養成協議会主催の学生研究発表会に参加しています。



## I 学ぶ

### 1 講座

「講座」とは、特定の目標やテーマにそって10~15程度の授業を履修し単位を取得する文芸学部独自の取り組みです。講座群A（実務）は、情報処理検定講座、編集技術講座、英語通訳ガイド講座、フランス語通訳ガイド講座の4講座が、講座群B（文化）は、広告文化講座、編集文化講座、シェイクスピア講座、日本人論講座、ポピュラーカルチャー講座、地中海講座、ジェンダー講座の7講座があります。修了すると講座修了証が授与されます。所属コースで専門性を深める学びとは別に、大学での学びにもうひとつの「自分らしさ」を形にすることができます。



### 2 動画を活用した授業

授業に動画を取り入れることで、さまざまな視点からテーマにアプローチすることができます。例えば、日本人教員が担当する外国語の授業では、ネイティブの先生による発音講座の動画を用います。また、招聘した学外講師の講演を学内でインターネット配信することで、より多くの学生に聴講の機会が開かれます。入学前の学生を対象にした授業紹介などにも動画を活用しています。



### 3 十二単着装の見学

この数年、平安文学の授業の一環として、十二単の着装見学を行っています。ハクビ京都きもの学院の先生を講師としてお招きし、講義をうかがいながら、着装の仕方を見学します。当時の貴族の女性はほとんど外出することなく室内で過ごしていたわけですが、実際に十二単を目の当たりにすると、いかに衣服に行動が規制されていたかを想像することができます。百人一首の絵札に描かれる女性の座り姿や、ゐぎる動作、衣ずれの音など、資料集を見るだけではなかなか伝わらない部分が見えてきます。着装見学は主に十二単ですが、直衣や狩衣など男性装束も着付けをいただいています。ちなみに、どちらもモデルは学生の立候補で行っています。



### 4 ゼミ展

1年次の文芸ゼミのうち、須田クラス（絵画）では共立祭でゼミ展を開催し、学生による作品の発表に加え、東日本大震災の震災孤児支援のためのチャリティ活動を行っています。作品はパステル、水彩、油彩、鉛筆など多岐にわたり、毎年好評を博しています。学生にとっては、この展覧会を通じて作品の制作と発表、展覧会の企画、運営、展示、販売などを経験し、机上では得られない多くのことを学ぶ、貴重な機会となっています。また同時に、ゼミ展、チャリティ活動の経験者である上級生や卒業生有志の協力を通じ、学年を超えた多様な交流の場ともなっています。



## II 読む

### 1 ブックマラソン

文芸教養コースでは、多くの本に触れて世界を広げることを目的に、特別プログラム「ブックマラソン」を実施しています。このプログラムでは、教員による推薦図書リストと読書ノートを学生に配布し、学生は読書の記録を書きます。共同研究室にはブックマラソン用の書棚を設置し、推薦図書の貸出も行なっています。授業にも積極的に導入されており、ブックマラソンのリストから卒業論文のテーマを選ぶ学生が出てくるなど、学生が本に親しむ良ききっかけとなっています。



### 2 リーディング・マラソン (Reading Marathon)

Reading Marathonは英語の速読教材を使って、学生の自学自習を支援するシステムです。教材はレベル別に分かれており、単語や文章の難易度そして長さなどを段階的に引き上げてゆくことで、学習者の英語力を無理なく養えるようになっています。英語英米文学コースでは42冊の英語速読教材を読破することを目指し、参加者に専用のファイルを配布します。1冊読むごとにスタンプを押す「スタンプ・ラリー」で、学習者のモチベーションを保つ工夫をしています。英文コース学生必修の授業に組み込み、英語力をアップするための体制を充実させています。リテラチャー・サークルの形式を取り入れた読書会は好評です。



### 3 プレジール・ドゥ・リール (Plaisir de lire)

「プレジール・ドゥ・リール」は読書の喜びという意味で、フランス語フランス文学研究室で実施している、日本語訳でフランス語圏の文学を読むプログラムのことです。フランス語圏文学はバラエティ豊かで、フランスのパリや地方、また、スイス、アフリカ、カリブ海、カナダのフランス語圏の文学を読んで、世界中を旅する気分を味わうことができます。ラ・フォンテーヌ『寓話』、サン＝テグジュペリ『人間の土地』(随筆)、ユゴー『レ・ミゼラブル』・デュマ『三銃士』(小説)、ランボオ『地獄の季節』(詩)など様々なジャンルがあります。参加者には、資料やマップなどがついたカラフルな読書手帖が配付され、読了した冊数に応じてお祝いの品が贈られます。自分の世界が広がるような、わくわくするような読書体験が待っています。



## III 究める

### 1 日本文学研究旅行

日本に居て日本文学を学ぶ事の利点は、文学の題材となった土地や、作家をはぐくんだ風土について、現地で確かめることが出来る点です。近年、各地の博物館、美術館が整備され、その土地に根差した文学芸術作品を収集し、頼もしいガイドとなっています。また、見学施設でなくとも、作家の住んでいた家やその近所などが風致地区として残っている場合もあります。こうした日本文学の舞台を巡る旅はこの大学でもやっているありふれた行事ですが、この研究旅行の特徴は、日本文学演習を履修する学生有志が計画を立てるという点にあります。



### 2 造形芸術研究旅行

造形芸術コースでは、卒業論文・卒業制作に向けて、造形芸術コース所属および美術史をテーマとした卒業論文を予定している2・3年次生を対象に、隔年毎2泊3日の研究旅行を実施しています。研究旅行では作品の「実物」を鑑賞し、美術に関するさまざまな問題について議論し、物事の本質を追究するよう指導しています。現代ではメディアを通じて多くの情報が容易に得られますが、自分の目で確かめ、自分の言葉で考え、表現する機会をもつことは非常に大切です。そして、先生と学生との、あるいは学生同士の貴重な語らいの機会ともなっています。



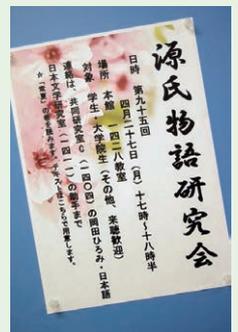
### 3 フランス語フランス文学コース研究旅行

フランス語フランス文学コースでは、毎年研究旅行を実施して様々な場所を訪れ、フランス語やフランス文化を学んでいます。軽井沢寮でフランス語強化合宿をした年もあれば、世界遺産になった富岡製糸場（設立時にフランスの協力がありませんでした）や、箱根にある星の王子様ミュージアムを見学するなど、その内容は多岐にわたります。例年、研究旅行にはフランス、スイス、そしてアフリカのベナン共和国からの交換留学生たちも参加しており、フランス語での会話や文化交流が生まれることも。教員、助手、学生、留学生の間で、そして学生同士でも学年を超えて、親睦を深める機会になっています。



### 4 源氏物語研究会

源氏物語研究会では、月1回、源氏物語の読書会を行っています。研究会参加者は、日本語日本文学コースに所属する学生だけでなく、源氏物語の英語訳を卒業論文のテーマに選んだ英語英文学コースの学生や、文芸教養コースから日文の大学院に進んだ院生、家政学部を卒業したのち日本文学に興味を持った卒業生等、バラエティにとんだ顔ぶれです。今年度はいわゆる玉鬘十帖を読みすすめており、現在初音巻までたどりつきました。1回の読書会で4～5頁ずつゆっくり読み、語り合うことで、大勢で読むからこそ深まってゆく「読書」を楽しんでいます。



### 5 文芸メディア研究集会

文芸メディアコースでは、メディアに関連のある様々なジャンルの方を、主に外部から講師としてお招きしています。コースの学生だけでなく学部内の学生に広く参加を呼びかけています。1時間ほどの講演後、30分ほどの質疑応答の時間を予定していますが、毎回時間オーバーしてしまうほどメディアに対する文芸学部学生の関心は高く、また講師の方たちもそれによく応えてくださいます。今後も、より革新的に、より創造的にさらなる内容の充実をはかってゆきたいと、コースの教員一同、考えています。



### 6 「私が読んだ一冊」ポスター発表

英米文学研究Bの授業では、自分が読んだ文学作品の魅力をポスターにまとめ、それを鑑賞しコメントし合う機会を設けています。一冊の本についてポスター一枚で伝えるには、その作品についての客観的知識だけでなく、自分がその作品のどこに「良さ」を感じたのか、深く考えることが必要になります。学生にとっては作品とじっくり向き合う契機となっているようです。また、他の学生のポスターを見たことで未読の作品に関心を抱き、次に読む作品が決まった、という声も多く聞かれます。



## IV 楽しむ

### 1 「フランス語劇」上演

1970年に仏文学コース5期生が神保町の岩波ホールを借りてモリエール作『町人貴族』を上演したのが「フランス語劇」の始まりです。その後歴史をかさね、『千夜一夜物語』や日本の昔話のパロディーをフランス語劇に仕立てた作品は、学外にも招待されました。また『洋なし太郎の冒険』、『サンドリヨン』は好評で、その脚本はNHKフランス語講座テキストで紹介されました。現在ではフランス語フランス文学コースの2・3年生を中心に上演チームを編成し、共立祭で公演を行っています。字幕や音楽、ポスターデザインなどの裏方も学生が担当しています。昨年・一昨年は、フランス語劇の原点にかえり、モリエールの代表作『ドン・ジュアン』を2年かけて前編・後編と上演し喝采を浴びました。脚色、演出、フランス語の発音および演技指導には、長年フランス語劇に携わってきたジャンク・マーニュ先生があたり、コースをあげて舞台の成功に向けて取り組んでいます。



### 2 合同観劇会

劇芸術コースでは「合同観劇会」があります。半期に一度、年二本、教員が選定した舞台作品を観劇し、その所感を観劇レポートにまとめて提出するというものです。作品は一本が現代劇、もう一本が歌舞伎や文楽などの古典芸能から、劇芸術コースの授業内容に資する作品が選ばれます。観劇前には教員が作品解説と鑑賞のポイント紹介をします。高いチケットが買えない、又は鑑賞作品の選択に困る学生でも話題作が低価格で見られます。近年の観劇作品は、世田谷パブリックシアターの『ドレッサー』と新しい歌舞伎座での『仮名手本忠臣蔵』でした。コースの教員・学生全員で同じ作品を鑑賞するので、全員で舞台について話し合う良い機会でもあります。

## V 称える

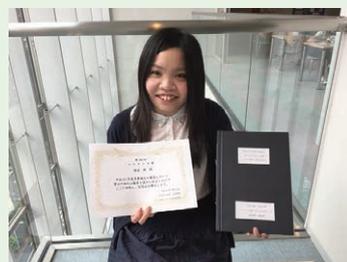
### 1 さくら賞

「さくら賞」は、1967（昭和42）年に、文芸学部における当該年度最優秀卒業論文・卒業制作を顕彰するために設置され（発足当初の名称は「サクラ賞」）、半世紀近くになつて文芸学部学生たちの卒業論文・卒業制作取り組みのモチベーション・アップに大きく貢献してきました。例年、受賞者には学部長の手により賞状と記念品が卒業証書とともに学位記授与式の際に授与されています。また「さくら賞」を受賞した造形芸術コース学生の卒業制作作品は、全学の入試広報用パンフレットや文芸学部独自の広報活動に使われることも多く、卒業制作に取り組む造形芸術コース学生たちの大きな励みとなっています。



### 2 マリアヌヌ賞

マリアヌヌとはフランス共和国を象徴する女性、母性や自由などの理念のアレゴリーです。「民衆を導く自由の女神」（ドラクロワ）の果敢なマリアヌヌは素敵だと思いませんか。仏文コースでは卒業祝賀パーティで優秀な卒業論文の執筆者を表彰するようになりました。卒業生がマリアヌヌのように、しなやかにしたたかにそして幸せに生き抜くようにと願い、マリアヌヌ賞と名付けました。仏文コースはフランス語フランス文学コースと名を変えましたが、今も学生はフランス語やフランス文学また音楽、映画やバレエなどフランス語圏文化に関するテーマの面白い卒論を日本語またはフランス語で書いています。



### 3 文教賞

文芸学部における年度最優秀卒業論文・卒業制作に授与される「さくら賞」の候補作推薦は、原則として各コースから1つとされているため、各コース内で選考を行ないますが、甲乙つけがたいことも多く、選考には各コースとも苦勞しています。そこで文芸教養コースではコース内の「さくら賞」推薦候補作すべてに「文教賞」を授与しています。毎年10作ほどの「文教賞」には、賞状と記念品が卒業証書とともに学位記授与式の際に授与されており、学生の卒業論文執筆の際のモチベーション・アップに寄与しています。



#### 4 すみれ賞

「すみれ賞」とは、劇芸術コースで特に優秀と認められた卒業論文や卒業制作（戯曲もしくはシナリオの創作）作品に対して授与される賞です。卒業式後のコース別学位記授与式の際、表彰状と賞品の贈呈式を行います。「すみれ賞」は、文芸学部全体から選出される「さくら賞」の候補になりながら惜しくも受賞には至らなかった論文・作品に対する教員からの賞賛を形にして残したいという思いから生まれました。受賞作品の一部は『櫻雲』に掲載されます。小さくても凛としたすみれのように、教員からのエールが受賞者の心に咲き続け、卒業後の人生を励まし、また後に続く学生たちの道標になってほしいとの思いが込められています。



#### 5 プリマヴェーラ賞

造形芸術コースでは、4年次の卒業論文発表会及び卒業論文・卒業制作展を通じてもっともすぐれた論文または作品を选考し、これにプリマヴェーラ賞を授与しています。それとともにすべての論文・作品の概要を「プリマヴェーラ（イタリア語で春の意）」と題する冊子にまとめ、毎年発行しています。そこには各人の4年間の軌跡と成長がうかがわれ、実に興味深く、感動的ですからあります。



#### 6 英語英米文学コース卒業論文報告会

英語英米文学コース4年生では全員参加の卒業論文報告会を行っています。昨年度は一人ひとりが自分の論文の内容を表すポスターを作成し、論文の趣旨を発表しあう、ポスター・プレゼンテーションを行いました。文学・文化・言語学・英語教育など、改めてコースの研究分野の幅広さを実感する機会でもあります。力作揃いのポスターと小さなグループでの口頭発表で、お互いの研究への理解が深まりました。報告会は半日がかりの楽しいイベントです。



#### 7 絵画卒業制作・学外展

造形芸術コースの卒業制作ゼミ（絵画・須田クラス）では、学内での卒業制作展の後、銀座の画廊で毎年学外展を開催しています。銀座の画廊での展示会は実に晴れがましいことですが、一方では専門家の厳しい視線に耐える作品であるか、学生にとっては緊張の展示会でもあります。「毎年楽しみにしていますよ」といって下さる方もいらっしゃって、学生にとっても教員にとっても励みになります。会場には卒業生たちも来場し、旧友との再会の場ともなり、学内、学外を問わず多くの出会いが生まれています。



## VI 伝える

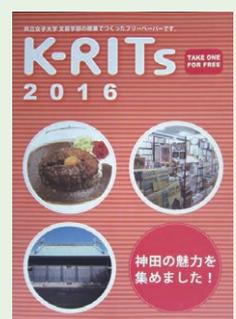
#### 1 『文藝学部報』

『文藝学部報』は1968年の発刊以来、文芸学部の教育・研究活動を内外に伝えてきました。企画・編集から原稿の依頼・受け取りまであらゆる業務を、学生と教員の間を媒介する各コース研究室の助手たちが担っています。『文藝学部報』は、自由闊達な文芸学部らしさを伝えるメディアであり、毎号組まれる特集記事は、文芸学部らしい興味深い読み物にもなっています。



#### 2 『K-RITs』

DTP基礎実習Bという授業では、雑誌『K-RITs』を制作します。履修者全員が神保町を広く取材し記事を書き編集にあたるのです。企画書を作成し、取材先の店舗や施設などに連絡をとって協力を仰ぐ作業から、写真を撮影しインタビュー記事を書き、取材後DTPソフトでデータをまとめるまで、指導教員と一丸となって取り組みます。様々な問題を乗り越えながら「協力」や「社会貢献」の経験値を積むことをねらいとしたアクティブ・ラーニングは、学生にとってかけがえのない経験となるばかりか、就職活動を行う上でも役立っています。なお『K-RITs』はオープンキャンパスで希望者に配布しています。



### 3 「櫻雲」

文芸学部最優秀卒業論文・卒業制作に授与される「さくら賞」は、論文・制作それぞれ1作しか受賞対象となりませんが、近年各コースから上げられる候補作の数が増え、またその水準も高いことに配慮して、「さくら賞」受賞作とともに候補作から選抜された論文・制作を掲載する作品集を、『櫻雲』という名称で2010年から発行しています。『櫻雲』の存在は、文芸学部学生のモチベーション・アップに大きく貢献するだけでなく、3年次学生対象の卒業論文・卒業制作ガイダンスの際に配布され、卒業論文・卒業制作の大切な資料となっています。



### 4 「卒業論文・卒業制作概要集」

造形芸術コースでは、卒業論文と卒業制作の概要をまとめた冊子を毎年発行しています。1人1ページずつ、卒業論文の場合は論文の要旨と執筆後の所感、卒業制作の場合は作品の写真と本人のコメントを掲載しています。分野は西洋美術史、日本美術史、絵画、彫刻の4つですが、内容は中世から現代まで、西洋から日本まで、人物あり、動物あり、抽象に至るまで、多彩です。



### 5 「私の授業を振り返って」

『私の授業を振り返って』は、文芸学部が独自に行ってきた教育改善の様々な試みの締めくくりとして、教員が一年間自分の担当した授業を振り返り、それを共有するものとして発行されています。その際、自らの授業を内省するスタイルをとることこそが文芸学部らしいと考え、エッセイ形式を採用しました。そのため教員たちは毎回、執筆に苦労しますが、なかなか面白い読み物になっているという評判を得ています。文芸学部が独自に行った教育改善の試みの多くは全学的なFD活動に吸収されていきましたが、この『私の授業を振り返って』の発行は現在に至るまで継続し、学内外に配布されています。



### 6 「文学芸術」

1968年、当時文芸学部布設されていた文芸研究所の機関誌として『文学芸術』が創刊されました。以来、『文学芸術』では毎月特集を組み、論文だけでなくエッセイ、研究余滴、回想録など多彩な表現を許容しており、専門の垣根を越えて思考し、実践する、文芸学部の気風を体現したメディアとなっています。現在は執筆者は全学の教職員に及んでいます。



## Ⅶ 出会う

### 1 「OGネットワーク」によるキャリア支援

文芸学部卒業生の交流組織である「文芸OGネットワーク」では、2011年よりOGの立場から「在学生の就職支援」に踏み出し、働くことへの認識を深めるトークイベントを継続的に行ってきました。文芸学部の学生にとって適切な就職支援とは何か、先輩としてできることは何かをともに考えながら、社会に出る前のウォーミングアップとしてOGネットワークの活動を利用しただけのようなサポート体制を整えていきます。



### 2 桜会展

「桜会展」は桜会会員による展覧会です。桜会とは主に絵画ゼミ卒業生の集まりであり、その名称は共立女子大学の校友会である桜友会の桜に由来します。そのきっかけは、2012年に、桜友会のサポートにより神保町すずらん通りの繪画廊で開いた展覧会です。始まってからまだ日の浅い取り組みですが、長い伝統を誇る共立女子大学の絵画教育の成果を体現するものであり、絵画を志す在学生や文芸学部を志望する高校生にも良い刺激となっているようです。桜会が卒業生と在学生の、年齢や肩書き、学年を超えた出会いと交流の場として発展することが期待されています。



# 国際学部 Faculty of International Studies

## I 新しいカリキュラム-GSE (Global Studies in English)

### 1 GSEの取り組み

2016年度発足のGSE (Global Studies in English) は、グローバル社会におけるビジネスや日米等の社会について、英語が母語の教員を中心に講義・ゼミを行い、卒業に要する単位の半分 (62単位) を英語で修得するプログラムです。通常の必修外国語に加えて、インテンシブ・クラスで英語力を鍛えるとともに、専攻プログラムと相まっての確かな専門知識および幅広い国際教養の修得を旨とします。GSEでの学びの集大成として、少人数のゼミナールにおいて英語で卒業研究を行います。



### 2 GSEのゼミの学外研修

On May 14th, Dr. Gretebeck and Mr. Mills went with their Foundation Seminar (kiso zemi) classes on a study trip (gakugai kenshu) to Asakusa and Hamarikyū Gardens. The two classes involved are part of the new GSE (Global Studies in English) program in the Faculty of International Studies.

It was a good day, giving students and teachers the chance to communicate in English and get to know each other better.

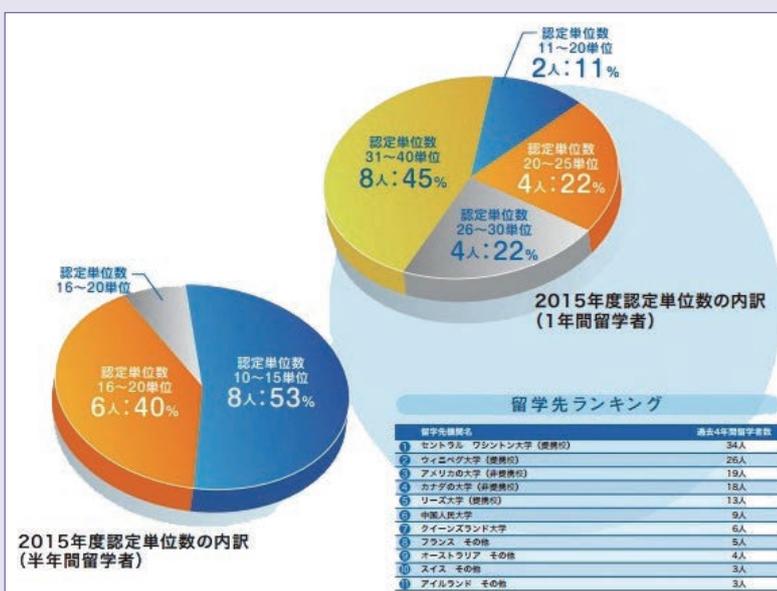


## II 長期留学

### 1 留学生

グローバル人材育成の必要が広く認識される中で、近年国際学部では在学中の長期留学が大きく増え、ここ数年は毎年30~40名が1年ないし半年の海外留学を果たしています。

●国際学部留学帰国生数の推移(帰国年度別・留学期間別)



### 2 留学で取得した単位の認定

国際学部では、長期留学しても4年間で卒業できるように、留学先で取得した単位を積極的に認定しています。2015年度においては、1年間留学した者の89%が20単位以上、44%が30単位以上の単位認定を受けており、無理なく4年間で卒業することができます。休み時間も含めた厳密な授業時間換算に基づき、単位認定を行っています。

### Ⅲ 国際学部短期語学研修プログラム

#### 1 州立ワシントン大学

アメリカ西海岸の州立ワシントン大学において夏季休暇期間を利用して行う、ホームステイとセットになった約25日間の英語研修プログラムです。州立ワシントン大学は、西海岸地域のみならず、全米でもトップクラスの名門として知られます。2005年から毎年実施しており、2015年度には22名が参加しました。



#### 2 ウィニペグ大学

長期留学の提携校の一つであるカナダ・ウィニペグ州のウィニペグ大学において夏季休暇中に行われる、ホームステイを含む約25日間の英語研修プログラムです。『クマのプーさん』(Winnie-the-Pooh)の名称は、このウィニペグ(Winnipeg)に由来します。



#### 3 ダブリン・シティ大学

穏やかな気候に恵まれたアイルランドの首都に立地するダブリン・シティ大学において行う、ホームステイを含む約30日間の英語研修プログラムです。2012年より開始され、夏季休暇期間および春季休暇期間の年2回行われます。



#### 4 ザールラント大学

ザールラント大学は、ドイツ南西部ザールラント州の州都ザールブリュッケンにある大学です。フランスと国境を接し、また第二次世界大戦後フランスの統治下で設立された経緯もあり、ドイツの数ある大学の中でも国際交流の盛んな大学の1つです。国際学部は、同大学における約3週間のドイツ語研修プログラム(主に夏季)に、平均して毎年1、2名ほどの学生を派遣しています。



### Ⅳ 国際交流

#### 1 フルブライト招聘講師

アメリカの現職大学教員であるフルブライト招聘講師により、英語での特別授業を実施しています。近年2コマ以上が開講されています。

また、2015年度の米国フルブライト招聘講師であったマシュー・フィルナー教授(ミネソタ州メトロポリタン大学)を2016年7月に招いて、女性初のアメリカ大統領の座を狙うヒラリー・クリントン(民主党)および反移民・反イスラム・反自由貿易の過激な発言を繰り返すドナルド・トランプ(共和党)が対決する2016年大統領選挙について展望する特別セミナーを開催しました。



## 2 海外研究旅行

学部授業の一環として毎年海外研究旅行を実施しています。オリエンテーションや事前授業への参加などを経て、夏休み、春休み等に海外研究旅行に参加し、帰国後にレポートを提出すれば、「海外事情／フィールドワーク」として2単位を取得できます。2014年度は、アメリカ合衆国（2014年9月・14名参加）、イギリス（2015年2月・12名参加）および東南アジア（2015年3月・19名参加）へ、2015年度は中東欧（2015年9月・14名）、イギリス（2016年2月・18名）、東南アジア（2016年2月・13名）への研究旅行が実施されました。本年度も引き続き3回の海外研究旅行を計画しています。



## 3 学生の国際交流

日中文化交流協会大学生訪中団一行98名が、中日友好協会の招きにより6月13日から19日の日程で訪中しました。本学からは国際学部三年生の2人が参加し、北京、厦門、上海を訪問し、北京師範大学と厦門大学の学生と交流したほか、万里の長城・北京故宫博物院・福建土楼など文化遺産の参観を通じて、中国への理解を深めました。



## 4 教員による研究交流

国際学部専任教員によるアメリカ・ヨーロッパ・アジア等との多様な研究交流が行われ、その成果がいろいろな形で学生に及んでいます。2014年度においては、木戸雅子教授が、文化財修復に関する長年にわたるギリシャとの国際協力を評価され同国の外務大臣から表彰され、サラミナ市の名誉市民の称号が授与されました。

西山暁義教授のドイツでの講演

2013年6月にGRAINES (Graduate Interdisciplinary Network for European Studies) というヨーロッパ史の研究会のサマースクール (パリ政治学院マントンキャンパス) で、基調講演を行いました。

石井久生教授のスペインでの講演

Ishii, Hisao, Euskal Herriko paisaia, japoniar baten ikuspegitik / El paisaje lingüístico del País Vasco desde la mirada de un japonés. Conferencia del Día Internacional de Euskera (国際バスク語の日会議招待講演), デウスト大学 (スペイン), 2011年12月2日。

Ishii, Hisao, Inmigración y cultura en los Estados Unidos de América : Comparación del caso vasco con otros inmigrantes. Ishii, Hisao, Ikerketa mintegia, Duestuko unibertsitatea, Bilbao (バスク研究所研究セミナーに招待され、講演をデウスト大学 (スペイン) で行いました。) 2014年9月19日。

共立でのドイツの歴史家の講演会

国際学部の西山暁義教授が、文部科学省科学研究費補助金で、ドイツよりゲルト・クルマイヒ氏 (デュッセルドルフ大学名誉教授) を招聘し、現在百周年を迎えている第一次世界大戦 (1914~1918年) とその研究の歴史にかんする講演会を行いました。



1 さまざまな授業形態

「比較文化論」

この授業では、ポヌ・ジョジアヌ・ゾマホンさんをゲスト・スピーカーとしてお招きしました。ポヌさんは、ベナン共和国と共立女子大学との留学プログラムの第一回生として来日され、その後研鑽を積んで、現在は東京大学工学部の助教として環境問題の研究に取り組み、また在日本ベナン共和国大使夫人としてもご活躍です。

授業では、アフリカ全般の状況、ベナン共和国事情の概説に続いて、日本との文化比較を映像資料を用いて、具体的に論じて下さいました。学生たちは興味津々で、あでやかな民族衣装に身を包んだポヌさんのお話に熱心に聴き入りました（写真右上）。



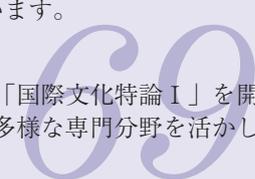
「映像文化論」

現代社会において重要なコミュニケーション手段である表象について理解を深めるための授業として「映像文化論」を開講しています。この授業は、現在映画製作の第一線で活躍し国際映画祭で受賞している映画監督、撮影監督、美術監督、プロデューサー、脚本家の先生を講師として招いてオムニバス形式で行っています。「あまちゃん」の美術監督の磯見裕俊教授（東京藝術大学大学院映像研究科）と映画「俺、俺」で若者に人気の三木聡監督による対談形式の授業（写真右）も行い、制作者の言葉を直接聞ける大変贅沢な授業で、毎年200人近くの受講者がいます。



「国際文化特論Ⅰ」

リオ五輪に先立つ2016年度前期に、国際的なスポーツの祭典であるオリンピックを主題とする「国際文化特論Ⅰ」を開講し、オリンピック（・パラリンピック）をめぐる政治、社会、文化の諸問題について、教員の多様な専門分野を活かした輪講形式で授業が行われました。



2 活発なゼミ活動

基礎ゼミ

1年生を対象とした基礎ゼミナールでは、教室で学ぶだけでなく、社会で実際に起きている様々なことを幅広く学ぶことにより視野を広めることを目的として、学外研修を実施しています。その一環として、6月16日の夕方、市ヶ谷にある国際協力機構（JICA）地球ひろばを、黒澤ゼミと立松ゼミの学生総勢約40名が訪問しました。

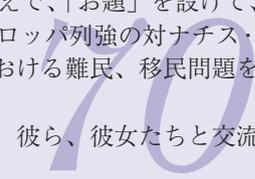


学外との合同ゼミ

国際学部の専門演習（3年対象）は、さまざまな活動が行われています。西山ゼミは、2016年7月3日（日）、昭和女子大学において、同大小野寺ゼミ（人間文化学部歴史文化学科）、立正大学森田ゼミ（文学部史学科）と合同でゼミを開催しました。

合同ゼミでは、毎年テーマを決め、その前提となる知識を共有するために、報告を行い、そのうえで、「お題」を設けて、ディベートを行うことにしています。2014年度は東ドイツ・国境警備兵の「罪」、2015年度はヨーロッパ列強の対ナチス・ドイツ宥和政策をテーマとし、2016年度は、昨年とくに大きな政治問題となった、ヨーロッパにおける難民、移民問題を扱いました。

学生たちは、ゼミの同じメンバー（だけ）ではなく、他大学の学生たちの発表に耳を傾けたり、彼ら、彼女たちと交流するなかで、普段とは異なる新鮮な刺激を受けることができました。



### 3 学部講演会

毎年様々な分野で活躍している方を外部講師としてお迎えし講演会等を企画しています。海外体験豊富な専任教員の人脈を生かして、美術館の館長、グローバル企業の経営者、国際機関事務局の元幹部、テレビ局のディレクター、料理外交に詳しいジャーナリストなどによる、他ではなかなか聞けない講演会を、年2～3回のペースで実施しています。また、1年次生を対象に、グローバル企業等で活躍する先輩達を招いて、学生時代の過ごし方や就職活動等の体験を語ってもらう企画も毎年行っています。



2016年度前期の講演会では、テレビの黎明期にテレビ・キャラクター商品のイラストや著作権ビジネスで活躍されたイラストレーター・エッセイストの根本圭助氏をお招きしました。

71



## VI 就職活動支援

### 1 マナー講習会

国際学部では、2016年7月14日(木)17時より本館1206教室において、インターンシップを直前に控えた学生を対象に、外部講師を迎えての「インターンシップ・マナー講座」が開催されました。

学生達は、国内線・国際線の元キャビン・アテンダントの講師によるユーモアを交えた豊富な経験談に聞き入り、また流れるような美しい所作には目が釘付けとなっていたようです。



### 2 マイナビの講演会

国際学部では、2015年10月15日(木)に株式会社マイナビ キャリアサポーターをお招きし、「総括総点検講座～17卒就活戦線のゆくえ」と題して、今年度の就職活動の状況や企業の採用動向を解説いただきました。レクチャーは、国際学部生に人気のメガバンク、航空会社、旅行・観光、ブライダルなどを中心に、業界ごとに異なる就職活動の詳しいスケジュール紹介や、来年度にかけての心構えや準備すべきことなど、一時間半の短い間に盛りだくさんの充実した内容でした。



## VII 刊行物

### 1 『国際学部リブレット』

新入生に配布する学部での学びに関するガイドブック『国際学部リブレット』を毎年作成しています。

### 2 『はなみずき』

電子版学部報の『はなみずき』を学園公式ページに掲載しています。



74

75

# 看護学部 Faculty of Nursing

## I カリキュラムの特徴

### 1 カリキュラムの全体像

看護師に必要な幅広く深い教養と豊かな人間性を涵養するための『教養教育科目』と、看護学の全般を学ぶ『専門教育科目』として「専門基礎科目」「専門基幹科目」「専門展開科目」「看護研究」から成っています。

「専門基礎科目」は看護学を学修するうえで基礎・基盤となる医学、社会学、心理学、統計学等の科目を含んでいます。「専門基幹科目」は専門職業人として必要とされる看護学分野の概論、技術論、援助論、演習、実習で構成されています。「専門展開科目」は看護師としての実践力をさらに発展させる科目であり、「看護研究」では研究法を学ぶとともに、各自の設定したテーマのもとに研究活動を行い、論文を作成します。



看護学部が主に学んでいる3号館には、和田三造作の「聖女奏楽の像」のモザイクが取り付けられています。

### 2 充実した「専門展開科目」

より専門的な進路の方向性について十分に検討できるように、選択制の専門展開科目を数多く配置しています。

「障害者コミュニケーション」「カウンセリング」「多職種連携論」「看護管理学」など2年次以降、順次開講され、学生の興味や関心に即して自由に選択することができます。



### 3 客観的臨床能力試験（OSCE）の実施

3年後期から本格的に始まる領域別実習の前に、「総合技術演習」を配置しています。この科目では、各種のシミュレーターや模擬患者を取り入れた実技テスト（OSCE；客観的臨床能力試験）を行います。

また、OSCE実施後には「総合技術演習修了式」を行い、学部長から合格者全員に修了証と徽章が手渡されます。以下の「誓いの言葉」は、看護学部1期生が式に際して、領域別実習に臨む自分たちの心構えを宣誓したものです。

#### 〔誓いの言葉〕

- 一、支えてくれた家族や先生方への感謝の気持ちを忘れずに、第1期生の仲間と培った向上心、協調性、最後まで諦めない心をこれからの看護に活かすことを誓います。
  - 一、相手の気持ちに寄り添い、いかなる時も平常心で、個別性のある看護を精一杯行います。
  - 一、患者さんとコミュニケーションをとり、信頼関係を築いて援助を行います。
  - 一、看護倫理に基づき、患者さんを尊重し、看護学生として責任ある行動をとります。
  - 一、これからも仲間とともに学び、協力し合い、成長し続けます。
- 私たちは、これらのことを忘れずに、後期からの看護学実習に臨むことを誓います。

平成27年8月7日

共立女子大学看護学部 第1期生一同



## II 看護学部7領域の取り組み

### II-1 基礎看護学

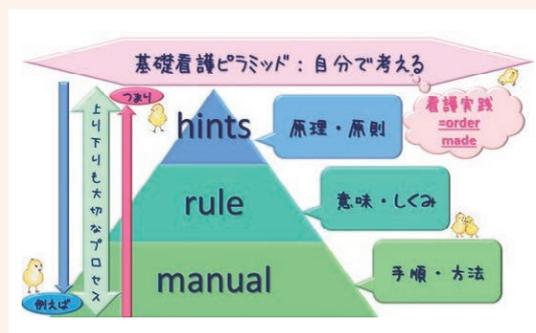
#### 1 基礎看護学とは

基礎看護学は、看護学の基本的かつ主要な概念や看護理論、または看護を行うにあたって必要となる基礎看護技術の展開・体系化を図る学問です。

看護の対象についての理解（人間（患者）にとっての身体や環境、健康と疾病の捉え方、病の意味など）、看護および看護学の歴史、医療専門職としての看護師の役割や責任、チーム医療の有り方、生命の尊厳とアドボカシーといった医療における倫理的側面を学びます。

How toで教えるのではなく、自分で考えることを大切にしています。

将来、看護師になってからも役立つ、一生ものの看護技術を修得し、看護師としての土台を築きましょう。



## 2 基礎看護学の授業、演習、実習

看護基本技術として、衛生的手洗い、療養環境、観察など、日常生活援助技術では、食事、排泄、清潔など、医療支援援助技術の注射法、採血法などについて学びます。動画教材も作成しています。さらに、授業・演習での学びを統合して実習を行います。

担当している実習科目は以下の通りです。

基礎看護学実習Ⅰ = 1年次6～7月に1週間

基礎看護学実習Ⅱ = 2年次8～9月に2週間

看護学総合実習 = 4年次9～10月に2週間



動画教材の例（採血法）

## 3 看護学実習室

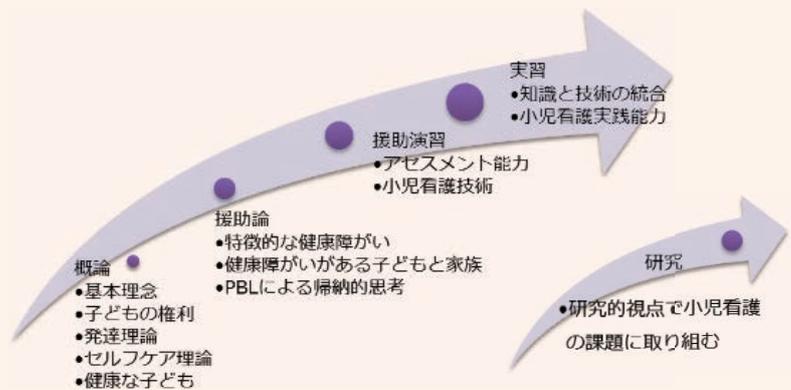
模擬病室として、授業・演習に使用します。学生4名に1台のベッドを用意しています。授業・演習以外にも希望があれば練習に使用することができます。



## II-2 小児看護学

### 1 小児看護学の特徴

子どもは、どのような状況にある子どもであってもその子独自のセルフケア能力を持っています。ここでいうセルフケア能力とは、生きるための生理的能力、自分が自分のために活動する能力、自分が他者からのケアを受けるために活動する能力、他者からのケアを受け入れる能力のことを指します。このことを前提として、子どもが状況にあわせて自身のもつ能力を最大限発揮できるように環境(人的・物的・制度等)を考え、必要な援助を構築できるように、セルフケア理論を用いて小児看護学を学んでいきます。



## II-3 母性看護学

### 1 母性看護学の特徴

母性看護学は、生涯を通じた女性のライフサイクル全体にわたる健康に関わる看護の領域です。そこでは、性と生殖に関する意義の理解と、生涯を通じた女性の健康の保持・増進、男女の健全なりプロダクティブ・ヘルス機能の発揮、次世代を育成できる看護能力を養うことを目指しています。担当科目は、母性看護学概論、母性看護学援助論、母性看護学援助演習、母性看護学実習です。

### 2 母性看護学演習で学ぶ看護過程

看護過程の学習では、一人の女性が妊娠し、分娩期・産褥期を経て新生児を養育する経過の中で必要な看護について、紙上事例を通して学びます。妊娠期は事例のアセスメントを行ったうえで、保健相談計画を立案し、産褥・新生児期は、退院までの看護過程を展開します。



### 3 母性看護学演習で学ぶ看護技術

母性看護技術では、妊婦・褥婦の腹部モデルや新生児モデルを使用して、妊婦・褥婦・新生児の観察や各時期に必要な看護技術を習得し、自己評価・他者評価による振り返りを行っています。



## II-4 成人看護学

### 1 成人看護学の概要

成人看護学領域は、患者さんの身体が病気やその治療で急激に悪化したり、回復したりする時期の急性期・回復期ケアと、病気が慢性的な経過を辿り、死を迎える時期の慢性期・終末期ケアに、大きく分かれます。

### 2 急性期・回復期ケア

急性期・回復期ケアでは、手術を受ける患者の看護や病気や交通事故などで障害を受けた患者のリハビリテーション看護について学習します。大腸がんでストーマ(人工肛門)造設術を受けた患者の擬似体験として、ストーマパウチを実際に装着して日常生活をおくる学習をしています。学生は講義で学んだ知識を生かし、実際の患者が体験する状況を再現する工夫をし、日常生活の困難さを実感することによって患者理解を深め、患者や家族に対してどのような看護が必要かを学習していきます。



### 3 慢性期・終末期ケア

慢性期・終末期ケアでは、学内の授業を通して、病気で闘病中の患者さんの気持ちを体験し、そのケアを患者さんの立場から考えるために、腎不全の患者さんの食事を試食したり、身体の観察や生活指導を受ける患者さんや家族の役を演じたりしています。また、臨地実習の最終日には、異なる実習施設の学生が一同に介し、患者さんのQOLについて意見交換し、実習で行ったケアが個別的なケアであったのかを考える機会を持っています。これらの体験を通して、学生たちは患者さんの気持ちや生活を尊重した看護を学習していきます。



## II-5 高齢者看護学

### 1 高齢者への理解を深める「高齢者看護学概論」

「高齢者看護学概論」は1年後期に開講します。その中で、高齢者に対する理解を深めることを目的に、地域で元気に暮している高齢者の方を市民講師としてお招きし、自分史を語っていただきます。

昨年の講師は、1960年代に共立女子高等学校を卒業し、その後、語学や歴史を学ぶためにカイロの大学に留学し、エジプトやフランスで様々な活動をされ、数年前に帰国した70歳代の女性です。写真は教員との対話形式で授業を進めている場面です。

学生には、「高齢者」を一括りにするのではなく、それぞれの人生を培ってきた「個人」であることを忘れずに高齢者を理解することの大切さを知る機会となっています。



### 2 実践へとつなぐ「高齢者看護学援助演習」



高齢者看護学援助演習は、2年前期の高齢者看護学援助論を受けて、2年後期に開講します。高齢者とのコミュニケーション演習、高齢者疑似体験などを組み込んでいます。そして最終回には、3年次から始まる「高齢者看護学実習」へのエールも込めて、老人看護専門看護師をお招きした特別講義を開講しています。写真はその講義風景です。当日は、「高齢者を光輝させるために：今、老年看護の実践現場で求められていること、看護職に期待されていること」をテーマにお話いただきました。

### 3 地域で暮らす高齢者の支援から学びを始める「高齢者看護学実習」

3年前期の6月には「高齢者看護学実習Ⅰ」を開講します。2016年は都内17箇所の通所施設に伺い、地域で生活する高齢者と家族、地域包括ケアシステムの実際を学びました。写真は最終日の実習総括の風景です。

学生は、様々な疾病を持ちながら地域で生活する高齢者と関わり、援助に参加しました。また、通所施設の送迎車への同乗、防災訓練への参加、バスツアーへの同行など多様な体験から、多職種連携・協働の実際、看護職の役割について学びました。

このあと、3年後期から始まる高齢者看護学実習Ⅱ・Ⅲへと繋がっていきます。



## II-6 精神看護学

### 1 「精神看護学概論」での精神障害の当事者をお招きした特別講義

看護学部2年生前期の「精神看護学概論」の授業では、毎年、群馬県伊勢崎市から精神障害の当事者の方々をゲストスピーカーとしてお招きし、「病気の体験」や、「当事者からみた精神医療」についてお話いただいています。2015年6月5日は、7名の当事者の方々に、2016年6月24日は、6名の当事者の方々にお願いいただきました。

当事者の方々が医師から告げられた病名は、統合失調症や気分障害（うつ病）などですが、当事者の方たちは、ご自分がなぜ病気になってしまったのか、過去においてどのような病状であったのかを自己分析し、それに相応しい「自己病名」をつけて、その自己病名を白板に書くとともに、なぜ「自己病名」をつけたかについても説明していただきました。さらに、現在は、どのように病気を受容し、病気と付き合っているかなど、分かりやすくお話いただきました。

学生たちは、大変身近に感じることができ、また辛い体験を乗り越えて当事者の方たちが病気を受容し、病気と上手く付き合っていることを知り、感動していました。また、「病気のせいで…」ではなく「病気のお陰で…」と病気でさえ、前向きにポジティブに考えていらっしゃることに、驚き、共感していました。

学生たちは、精神疾患が大変身近であると感じるようになり、「精神障害者に対する偏見」を軽減することができたようです。また、看護師には、「精神科の患者だからと言って特別に扱わないで、普通の人と同じように接してほしい」「精神科の患者という壁を作らず、話を聞いてほしい、相談のってほしい」など、当事者の方々に対する看護師としてのケアの仕方を学ぶことができました。



2016年の特別講義

## II-7 地域・在宅看護学

### 1 時代のニーズに応える地域・在宅看護学教育

近年保健医療システムは「入院」から「在宅（地域）」中心へと大きく舵を切り、看護師教育においても、「生活する人々」を対象とし、「生活の場」で行う看護を学ぶ重要性が高まっています。本学では、「地域看護」と「在宅看護」を連動させながら学修することにより、様々な専門職種、機関のみならず、生活する人々自身と協働して、生活の場（地域・在宅・産業・学校）に必要な資源を生み出したり、調整を行いながら、生活する人々の心身の状態を向上させるだけでなく、よりよく生きる助けとなるための支援方法について、効果的に学ぶことができます。

講義では、地域・在宅看護を实践する看護師や連携する他職種、住民、在宅療養者等を招聘し、実践が具体的にイメージできるよう工夫しています。また、千代田区や地元企業、実習施設等のご協力のもと、充実した学外演習と実習を準備し、地域で働く看護師として、また地域と連携して働く病院看護師として不可欠な考え方・スキルが取得できるとともに、保健師教育課程進学に向けた基礎的能力も十分に身につけることができる教育プログラムを構成しています。



### 2 産業保健活動の実現場体験

学校や産業の場で働く看護職への興味関心が高い学生を対象とした選択科目の中で、共立女子中学高等学校と、千代田区や中央区の企業での学外演習を行っています。この学校・産業保健活動の実現場での学修は、養護教諭や産業看護職の活動と学校保健システムや企業の健康経営について、実践的に理解を深める目的で行われます。さらにこの体験は、病院に入院している患者さんの入院前後の生活の理解につながり、病棟での退院支援にも生かされていきます。加えて学生にとっては、病棟経験を経て学校・産業保健の場で活躍する看護職の先輩方の姿に自身の将来を重ね、キャリア形成について考える貴重な経験ともなっているようです。



### 3 最先端の在宅医療機器を用いた医療機器管理演習

近年保健医療システムは「入院」から「在宅（地域）」中心へと大きく舵を切り、医療的ケアを必要としながら自宅で療養する患者さんが急増しています。また、このような在宅療養者を支える医療機器も日進月歩の勢いで進歩しています。このため、在宅医療機器メーカーから最先端の医療機器の提供を受け、医療機器の使用・管理方法を学んだり、また在宅療養者の自宅を模した在宅看護実習室において、学生自身が在宅療養者の立場で医療機器を使用して、療養者や介護を行う家族の身体的、心理的、社会的状況について考える演習を行っています。これらの体験を通じて、学生は在宅療養者とその家族に必要な支援について理解を深めていきます。



### 4 地域連携を基盤とする地域看護診断演習

千代田区並びに区内の関係機関、民生児童委員の方々との地域連携のもと、千代田区住民の健康課題と支援策を検討する地域看護診断演習を行っています。演習では、学生自身で対象地区を歩き、暮らしやすさや健康に関わる町の状況を確認したり、地域包括支援センターや児童館の職員、民生委員、児童委員、並びに住民の方々にインタビューを行ったりします。これらの学修を通じて、学生は、現代の保健医療福祉制度の中で必須となる地域看護の最新の知識と技術を習得していくこととともに、健康な人々に対する看護の役割について理解を深め、住民・多職種多機関との連携に必要な態度を身につけていくことができます。



## Ⅲ 学生生活

### 1 新入生歓迎交流会の開催

毎年4月のオリエンテーション期間に、新2年生の有志がBig Sisterとして新入生を迎える『新入生歓迎交流会』を開催しています。

1期生、2期生と回を重ねるごとに参加者が増え、2016年4月に4期生を迎えて開催した歓迎会には座席を増やすほどの参加者がありました。

お姉さん役の2年生から、履修科目・勉強方法・病院実習・サークル・アルバイトなどについて情報を得たり、連絡先を交換するなど、楽しく有意義な学生生活を送れるようにという先輩達の想いが伝わる催しです。



### 2 学生・教員懇談会の開催

新しい看護学部だからこそ、学生と教員間の率直な意見交換の場を設け、よりよい学部作りに学生の声を反映したい、そんな思いから、毎年9月末に開催しています。出席者は各学年のクラス委員をはじめとする有志、教員側からは学部長、学生委員会、クラス担任などです。

「3号館にエレベーターを増設して欲しい」という応えにくい提案もありますが、実現可能な意見から順次取り入れ、学習環境の整備に生かしています。

### 3 すずらん祭りへの参加

2015年から、神田すずらん通り商店街において開催される「本の街 すずらんまつり」の共立女子大学ブースに、『カラダの中の酸素はどれくらい？測ってみよう酸素飽和度』と題したコーナーを開設しています。2016年は、看護学部3年生のボランティア10名が参加しました。

最初は緊張していた学生も徐々にリラックスし、ブースを訪れた観光客の方々の測定を行い、測定値の見方を説明していました。このように地域商店街の活動にも参加しています。



### 4 「さくら通信」の発行

東京都千代田区という「地の利」を生かし、学外で開催される医療・看護系の催しを学生に案内し、視野を広げてもらうという趣旨で、学生に向けて、看護学部学生委員会から配信しています。

2015年から開始し、現在、3号まで発行しています。通信の題名は、「とびだせ！Kyoritsuナースー学生委員会さくら通信ー」です。

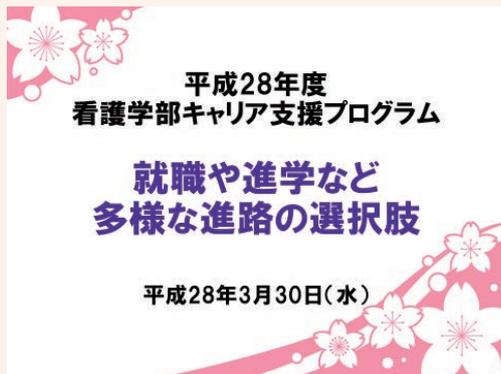
## IV キャリア支援と国家試験対策

### 1 新3年生対象キャリア支援

新3年生を対象に、2年から3年に進級する3月末の在学生オリエンテーション期間に、進路の選択肢を広げることを目的に実施しています。

看護学部教員の中から講師を依頼し、看護学部卒業後に保健師、助産師、養護教諭などの資格を取得する方法や、大学院の進学について説明を行います。

併せて就職進路課の協力もいただき、履歴書の書き方など就職活動基礎編のガイダンスも行っています。



### 2 新4年生対象キャリア支援

新4年生を対象に、3年から4年に進級する3月末の在学生オリエンテーション期間に実施しています。テーマは、「就職先の選び方：先輩との交流と将来への展望」です。実習施設として日ごろからご支援をいただいている病院から共立女子短期大学看護学科の卒業生をお招きし、就職活動の実際と勤務先の新人研修プログラムなどについてお話いただく企画です。

参加した1期生からは、「情報を収集する際の視点を知ることができた」、「キャリアアップの具体例を知る機会になった」、「先輩との交流がとても楽しかった」といった意見が聞かれました。



### 3 看護師国家試験対策

2013年4月に開設した看護学部1期生は、2017年2月に看護師国家試験を受けます。国家試験に対する支援として、web上で過去の試験問題を閲覧し、解くことができる「国家試験web」を導入するとともに、学年進行に応じた模擬試験を実施しています。

## V 教育推進のために

### 1 実習運営合同会議の開催

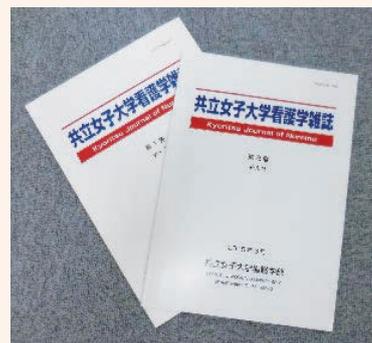
本学は附属病院をもっていません。そのため、看護学実習を円滑に進めるには、実習を受け入れてくださる医療機関をはじめとする多くの施設との密な情報交換が欠かせません。そこで、実習施設と看護学部が連携し、臨地実習における教育効果や問題について共有・協議することにより、教育体制の充実と実習教育の向上を図ることを目的に、年に一度、「実習運営合同会議」を開始しています。

平成27年度は2月に開催し、日下学部長による「今どきの学生気質」をテーマとしたミニ講義のあと、各領域に分かれて実習の成果、運営上の課題、今後の改善点などについて意見交換を行いました。

### 2 共立女子大学看護学雑誌の発行と看護学研究会の開催

教員個々がどのような研究テーマをもっているのか、あるいは各領域がどのような方法で教育を行っているか、看護学部ではこれらの情報を共有し、教員の教育実践、あるいは研究活動への示唆を与え合う目的で、雑誌の発行と研究会の開催を行っています。

雑誌「共立女子大学看護学雑誌」は年1回、毎年3月に発行しています。「看護学研究会」は毎月第4水曜日の夕方、おおむね年6～7回程度、開催しています。研究に関するプレゼンテーションのほか、研修会の報告や教育実践に関する情報交換などを行っています。



# 生活科学科 *Department of Science of Living*

## I 正課の教育

### 1 卒業研究・卒業制作

短大では珍しい「卒業研究・卒業制作」が設けられています。2年間の集大成として、より深い学習を行うことができます。テーマを決め、研究・調査あるいは制作を行い、その成果をプレゼンテーションすることは貴重な経験であり、大きな思い出となります。



### 2 卒業研究・卒業制作要旨集

卒業研究・卒業制作の内容をテーマごとに1頁にまとめたカラー版要旨集を毎年2月に発行しています。卒業研究・卒業制作を履修した学生には良い思い出となり、次年度に履修する1年生には良い目標となります。



### 3 実践教育

生活科学科では実習、実験、演習科目が数多く設けられています。講義科目で習った知識を実験や実習を通して実際に体験したり、コンピュータを操作して体得したり、その成果をレポートや作品に仕上げる実践教育を重視しています。これらの科目では、教員の他に助手が補助します。助手は、学生にとって身近で頼りになる存在です。



### 4 学外学習

神田神保町という地の利を生かして、学外での授業を積極的に行っています。食・健康コースでは日比谷松本楼でテーブルマナーの講習を行い、生活デザインコースでは国立近代美術館や三菱一号館美術館など、近隣の多くの美術館や博物館の見学会を授業に組み入れています。



### 5 リテラシー教育

生活科学科では早くから情報教育に力を注ぎコンピューターリテラシーに加えて現在ではメディアリテラシーに関する多くの科目を設けています。また、教養教育科目の「表現技法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の一つを選択必修とし、改まった場面で話したり、文章を正しく書いて正確に考えを伝えたりするなどのコミュニケーション能力の向上に努めています。



### 6 短期大学共通講座

共通講座は生活科学科と文科がコラボしてできた講座です。「人間関係と心理」「心と体の健康」など14講座が設けられ、それぞれに生活科学科と文科の科目の中から関連する科目が割り当てられています。学生は自分の関心がある講座にエントリーし、所属するコース、科を超えて幅広い学習をすることができます。



## II 正課のキャリア支援

### 1 チャレンジ・ゼミナール

「チャレンジ・ゼミナール」は、将来に向けてのキャリア支援を行う科目です。各学生の目標に応じて、就職チャレンジ、編入学チャレンジ、研究・制作チャレンジの3つのメニューから一つを選ぶことができます。担当する教員と打合せながら、講習を受けたり、課題に取り組んだりします。

チャレンジ種別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
履修人数																				
履修率																				

### 2 キャリアを考える

「キャリアを考える」は、学生の関心が高い業界で活躍する社会人を招いてオムニバスで行う1年次必修科目です。実際に仕事をしている人の経験談を聞くことは、貴重な経験であり、就職や編入などこれからの進路を考える上で非常に役立つ授業です。



### 3 キャリアアクティブワーク

「キャリアアクティブワーク」は、平成29年度から新設する2年次の科目です。生活科学科と文科で組織され、学生自身が運営スタッフとして就活・編入の支援プログラムに参加し、社会人として必要な企画力やコミュニケーション力、実行力などを体験的に養い、実践に役立てていきます。準備期間として、1年次を中心としてキャリアサポートワークショップ（通称キャリサポ）をスタートしました。



### 5 編入体験報告会

大学へ編入したOGや編入後就職したOGを招いて、編入体験を話してもらう機会を毎年設けています。編入前に心掛けておくこと、編入後に気を付けることなど、体験者だからこそ知っている、とっておきのノウハウが得られます。



### 4 秘書実務

「秘書実務を学ぶⅠ」「同Ⅱ」では社会で働くために必要な構え、マナーなどを学びます。秘書実務検定試験対策にも役立ちます。



# 115

### 6 個人別ポートフォリオ

入学直後に「個人作品ファイル」と印字したA4サイズのクリアファイルを全員に配布します。学生は授業で作成した演習作品やレポートをきれいに編集し、取得した資格の証書なども加えて、自分だけのポートフォリオを作ります。学習内容を振り返り、今後活かすと共に、就活の時には自己アピールに利用できます。



## Ⅲ 正課外のキャリア支援

### 1 社会人としてのマナー講座

キャリア教育プログラムの一環として行っている講座です。このプログラムは、学生の進路、女性のキャリア形成、生き方について、プロフェッショナルな外部講師の講演や実習を通して実践的に学ぶものです。第一弾の社会人としてのマナー講座では、就活時のマナーについて実践を交えながら具体的に学ぶことができます。



### 2 SK-II スキンケア講座

キャリア教育プログラムの第二弾として、平成28年度から新たにスタートした講座です。化粧品メーカーSK-IIの協力のもと、社会でいきいきと働く大人の女性に近づく第一歩として、スキンケアについて実践を交えながら学びます。就活や編入などの面接や将来にプラスとなる多くのヒントを発見することができます。



### 3 自分育成力講座

キャリア教育プログラムの第三弾では、女性の人生を展望したライフプランの重要性、雇用される働き方にとどまらず、フリーや自営・起業・ボランティア等、多様なキャリアプランのあり方を考えます。さらに、リーダーになるための能力について学び、自己の可能性を社会で花咲かせることのできる生き方・働き方について学ぶことができます。



### 4 インターンシップ研修

インターンシップ研修は、在学中に春休み、夏休みなどを利用して企業や団体で実務研修を行い、学校で習った内容をより深めるものです。生活科学科では学生がインターンシップ研修に参加することを後押ししています。研修先の企業の方、同時に研修に参加した他校の学生などから多くのことを吸収することができます。研修後に報告会も行います。



## 5 就活トークイベント 在学生編

毎年10月に1年生向けに、就職の内定した2年生に就職活動の体験を話してもらうイベントです。プレゼンテーション後の懇談会では交流も深まり、就活へのモチベーションを高めることができます。平成28年度からは、生活科学科と文科の合同イベントとしてバージョンアップしました。

# 122



## 6 就活トークイベント OG編

公務員・金融系に焦点をあて、在学生向けに、活躍する卒業生をパネリストに招いて行うイベントです。就活から仕事内容まで率直な疑問や不安解消に繋がる経験談を聞くことができます。パネルディスカッションの前に行う外部講師の公務員試験概要解説も、理解度アップに役立ちます。

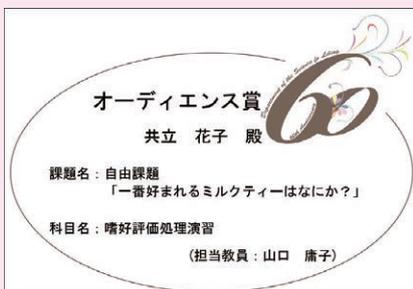
# 123



## IV 優秀学生の表彰

### 1 授業内作品・発表・レポート

生活科学科では、日々の授業で成果を上げた学生を高く評価し、表彰するシステムを設けています。これは生活科学創設60周年を記念して開始したもので、表彰状のロゴは学生・卒業生から公募した優秀作品をモチーフにデザインしました。



### 3 卒業研究・卒業制作発表

「卒業研究・制作発表会」(I-1参照)ではさまざまな研究・制作の成果を展示、プレゼンテーションを行います。発表会場において教員・学生による投票を行い、優秀な研究や作品を「卒業研究・制作優秀賞」として表彰します。発表会后、表彰式を兼ねた交流会を開催し、食事を楽しみながら2年間を振り返ります。



### 2 卒研要旨集表紙・ポスターの原画デザイン

卒研要旨集表紙の原画デザインを在学生からコンペ形式で募集しています。最優秀賞の作品はカラー版卒研要旨集の表紙とポスター用の原画として採用されます。日頃のデザインの腕前を發揮する良いチャンスとなっています。発表会終了後の交流会で、多くの学生参加のもと受賞者の表彰を行っています。

# 125



1 フードスペシャリスト

フードスペシャリスト、専門フードスペシャリストは、消費者と流通・販売業者の間に立って食に関するアドバイスを行ったり、食空間をコーディネートしたりするなど、豊かな食生活を実現する専門家です。食・健康コースでは、所定の科目を履修すると、2年次の12月に行われる両者の試験を受験することができます。



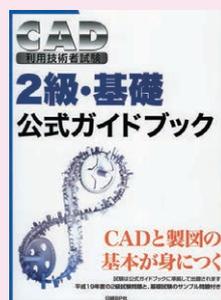
2 惣菜管理士

惣菜の質と向上と普及・啓発を促進し、食生活の豊かさの増進に資することを目的とした資格です。食・健康コースの学生は2年次前期から教員の推薦を受け、協会の実施する養成研修の受講資格を取得できます。研修終了後、惣菜管理士3級の試験を受けることができます。



3 CAD利用技術者基礎

生活科学科では早い時期から情報教育に力を入れ、そのため3コースともコンピュータを用いた演習授業が充実しています。生活デザインコースの住居や建築に関する授業では、手描きで図面を描く他、コンピュータを用いた図面作成（CAD=Computer Aided Design）の授業もあり、CAD利用技術者基礎試験を受験するための対応も行っています。



129

4 プロダクトデザイン検定

デザイナーとしての専門性の確立と、社会的信頼性の向上、プロダクトデザインの普及・啓発を目的とした資格です。商品開発に関わる全ての人に向けた関連知識の評価基準となるものです。生活デザインコースのプロダクトデザイン系科目では、2014年度よりこの資格取得のサポートをしており、例年、90%程度の高い合格率を誇っています。



130

5 マルチメディア検定

マルチメディア検定はビジネスの現場で必要とされるIT知識を評価する検定で、ビジネスの実務やIT関連に携わる仕事で役立ちます。メディア社会コースの専門科目ではこの資格取得のサポートをします。



131

## I 正課でのキャリア支援

### 1 キャリアデザイン演習

文科では正課の中でも、学生自身の将来設計を支援する教育を行っています。それが、1年の後期に就職や編入に必要な知識、情報、スキルを学ぶ「キャリアデザイン演習」(必修)です。将来設計についての講義、編入試験対策、SPI対策、コミュニケーションや発信力を高めるためのグループワーキング等を行っています。



### 2 秘書実務を学ぶ

「秘書検定試験」対策に対応した授業ですが、それだけではなく、社会に出て働くために必要な心構えや知識なども学びます。



### 3 観光英語を学ぶ

「観光英語検定試験」対策を念頭に置いた授業で、ホテルや観光業界への就活に役立つ実践的な英語の習得を目指しています。



## II 正課外でのキャリア支援

### 1 学生スタッフ



文科では、教員、助手と学生有志(交流会スタッフ)が就職進路課と連携しながら、就活支援のための正課外の様々な活動を行っています。特に、学生がスタッフとして関わることで、学生自身の就活にもつながり、また、学生の視点からのきめ細かな就職支援が可能になります。

### 2 OGトークイベント



OGと学生による交流会です(これを「レッツ交流会」と呼んでいます)。就活の仕方や就職後のことなどをOGに語ってもらいます。気になる就活の様々な取組や社会人としての心構えや苦勞あるいは楽しさなどを直に聞くことができます。キャリアを考える上でとても役立つ交流会です。

### 3 「内定者トークイベント」



すでに内定をもらった2年生と1年生との交流会です。就活の準備や、実際の就活のこと、就活の心得など様々なことをうかがえます。すぐ上の先輩の体験談が聞けるのでこれからの就活にとっても参考になります。

### 4 「進路Tea Party」



2年次の後期に、まだ内定を得ていない学生が集まり、助手や教員、就職進路課の人たちと茶話会の雰囲気での就活について語らう会です。なかなか内定が決まらなると落ち込みます。そんなときにとっても元気づけられる集まりです。

### 5 「編入トークイベント」

編入の決まった2年生と編入を目指す1年生の交流会です。編入対策や心構えなどを2年生に語ってもらいます。先輩から具体的なアドバイスがもらえるので、編入希望の学生にとってはとても有意義な交流会です。



## Ⅲ リテラシー教育

### 1 リテラシーポイント

文科はリテラシー教育に力を入れています。リテラシーは言語運用能力のことですが、特に、語学力そして文章力をつけることを重視しています。それらの力をつけるために、正課外活動で、リテラシーの力を身につけようとがんばった学生にはリテラシーポイントを与え、ポイントがたくさん集めた学生を表彰しています。また、編入学特別推薦の時にリテラシーポイントを一定の点数以上持っていることが推薦の条件になります。



### 2 千字エッセイコンテスト

文科では毎年2回千字程度のエッセイを募集し、優れた作品を表彰し、またその作品を冊子に掲載し様々な方に配布しています。応募した学生、入賞した学生にはリテラシーポイントが与えられます。その都度テーマを設定しますが、自由テーマでも応募できます。基本はエッセイですので、社会の出来事に対する思い、感動したことや落ち込んだことなど、学生のような声が伝わってきて、なかなか読ませます。

### 3 英語スピーチコンテスト

文科では、英語のスピーチコンテストを行い、優れたスピーチを行った学生を表彰しています。また、文科の英語スピーチコンテストの参加者と優秀者にはリテラシーポイントが与えられます。このスピーチに参加し発表するプロセスが英語の勉強にもなります。英語コース以外のコースからの参加者も増え、年々盛り上がってきています。



### 4 読書レポート

読書室にある本を対象に、800字程度の読書レポートを書いて提出した学生にはリテラシーポイントを与えています。中にはこの読書レポートを5本も6本も書く学生もいます。

## Ⅳ 特徴的な施設と活動

### 1 文科読書室

文科には読書室があります。ここには、学生が読みたい本や教員が学生に読ませたい本などが揃えられ、文科の学生が気軽に借りられるようにしている小さな図書室といえます。学生を中心とした読書室委員が運営管理し、本の選定も学生が行います。図書館と違って、学生が主体となって選書をするので、読みたい本がたくさん揃っています。貸し出しの手続きも簡単なので、自分の本棚のようです。



### 2 読書室委員

文科読書室の管理運営や、読書室の活動を行う、教員、助手、学生からなる委員会です。中心は学生で、委員代表は学生がつとめます。主な活動は、文科読書室の管理・運営、購入図書を選定、様々な読書室活動への参加です。1・2年生あわせて20数名の委員がおります。その他読書室活動はいろいろあり、例えば文学の史跡巡りなど自分たちで企画して行う楽しみもあります。



### 3 読書室活動

読書室委員は様々な活動を行っていますが、その一つは、学園祭に参加し、読書室の本の展示や、古本市を開き売り上げ金をユニセフに寄付するバザーなどがあります。この古本市は委員全員が参加する大きなイベントで、朗読やテーマ別の展示など古本市以外の企画も行っています。また、年に何回か「ブックパーティ」を開催しています。参加者は文科以外からも募り、賑やかで楽しい会です。



#### 4 「ブックパーティ」

文科読書室委員が中心になって行う読書イベントです。過去には「私のオススメ本」「本に関わるテーマについてのフリートーキング」「朗読による本の紹介」等を行いました。参加者は文科の学生だけではなく大学の学生にも呼びかけています。学生課と共催することもあります。ケーキやお茶が出る茶話会風の知的でなごやかな集いです。



#### 5 自習室

パソコン数台と6,7人が座れる小さな部屋ですが、学生がレポートを作成したり、パソコンで資料を検索をしたりする文科の学生のための学習室です。休み時間や授業の合間に、調べ物やレポートの作成によく利用されています。



### V 学生支援

#### 1 学習カルテ

学生一人一人についての学習状況や学生生活についての情報を、面談などを通して把握し、学習カルテに記載しています。このカルテによってよりきめ細かな学習指導や学生生活の相談に乗ることが出来ます。紙媒体のカルテですが、これを作成することが学生とのコミュニケーションの機会にもなっており、入学から卒業まで、担任教員が学生への親身な指導をするうえでこのカルテが大変役にたっています。



#### 2 「文科GUIDANCE」

文科では、教員のオフィスアワーや時間割、学習や就職についてのQ&A、文科の学生が利用できる施設の紹介等を記した『文科ガイダンス』と名づけたリーフレットを作成し、毎年新学期に全学生に配布しています。特にオフィスアワーには、気軽に教員の研究室に訪れることができるように、教員によるメッセージが書かれています。



#### 3 何でも学習相談コーナー

助手が窓口になり、学習相談を受け付けています。レポートの書き方、授業の内容がわからない、英語の基礎文法がわからない、卒論の書き方などなど、教員や助手がどんなことでも相談に乗ります。



### VI 学生と教員の交流

#### 1 地方出身者懇談会

文科では地方出身者の一年生との懇談会を入学後すぐに開きます。初めての東京での学生生活の不安などを話し合っ、地方出身者同士の交流を深め、友達作りの機会になることを願っての会です。先輩の2年生も参加し、毎回楽しい会になっています。



#### 2 クリスマス会・クラス会



12月には、各コースそれぞれ、学生と教員が一緒になってクリスマス会またはクラス会を開き、みんなでケーキを食べたりプレゼント交換をしたりします。このようなイベントを通して学生同士、あるいは教員と学生の交流を深めています。文科は学生と教員との距離がとても近いのが自慢ですが、このような催しが教員と学生との親密な関係を作っています。

# 全学共通

## I 教育システム

### 1 小さな総合大学

本学には専門課程として自然科学系、社会科学系、人文科学系が揃っており、そこには医療系、芸術系、メディア系、教育系、建築デザイン系なども含まれています。小さいながらも総合大学ということが出来ます。総合大学は大規模になりがちですが、大規模になると大学全体を見渡すことが困難になり、かえって部門ごとのまとまりが強くなる傾向があるようです。しかし本学程度の規模であれば全体が緊密な関係に保たれるので、見通しもよく、各専門課程の特質がいろいろなかたちで全体に浸み通って、総合大学としてのメリットが生かされることとなります。



### 2 全学共通教育科目

本学ではいわゆる教養科目を一本化し、大学・短大の別なく、すべての学部・科の学生が机を並べて授業を受けるようにしています。これによって学生の交友関係と視野が広がり、本学の小さな総合大学としての特質がますます強化されています。

### 3 KALECO

KALECO—Kyoritsu Active Learning Experience for Collaborative Communication—とは、共立女子大学・短期大学の持つ多彩な専門分野をクリエイティブな実践において結集し、その成果を学外に発表する新たな授業プロジェクトです。

全学部・全学科・全学年から参加可能、経験も不要。所属・専門・立場を越えて連携した教職員と、プロのアドバイザーがクリエイションの実現を支えます。

2015年、KALECO初年度の試みは、「共立講堂でメーテルリンクの『青い鳥』を上演する」。スタッフ・キャスト、すべて学生がつとめました。

ひとりひとり、好きなことも考え方も異なるからこそ、一つの作品を創ることは大変だけど面白い。でも自分たちが楽しくても、作品が良くなければツマラナイ！

創作の努力とコミュニケーションを通じて、ひとりひとりが本気で考え、分かち合い、頼れる存在になる。そうして培われる遊び心や教養、協調性、責任ある個人としての自覚は、必ず人生を豊かにしてくれる——KALECOは、そんな「学び」を創出する場でありたいと考えています。



### 4 基礎を作る

すべての新入学生は半期の基礎ゼミが必修です。これは25～30人程度のクラスを専任教員が担当し、大学で勉強する方法や意義について共に考えようというものです。ここを出発点として、卒業時の卒業論文や卒業研究に至る筋道が、本学での教育の根幹となります。また基礎ゼミナールでは本学の歴史や本学が位置する神田地域について理解を深めることも企画されています。



### 5 ネイティブ教員による英語科目

毎年ほとんどすべての新入学生が履修する英語Iは、ネイティブの教員が担当することになっています。これは英語だけで行われる授業です。英語の得意・不得意は関係ありません。とにかく、しゃにむに英語だけで行われます。まずは耳に慣れることが大切です。



### 6 プレイスメントテスト

入学式の前後に、新入学生の共通教育科目の英語の授業のクラス分けのため「プレイスメントテスト」が行われます。能力別のクラス分けは、効果的な授業を行うために必要です。どのクラスに入るかよりも、1年間努力することの方がはるかに重要なことです。

プレイスメントテストと対をなすものとして学年末に実施されるのが「英語アチーブメントテスト」です。これによって、1年間の努力の成果を量ります。

## 7 FD研修会

教員による授業改善の試みをFD (Faculty Development) と呼びます。本学には教員から成るFD委員会があり、様々な試みを教授会に提案し、実行していますが、毎年3月に行われるFD研修会もその一つです。全教員に呼びかけて、学外から専門家を招いて示唆を与えてもらったり、またお互いの模擬授業を見て批評しあったり、ということをしています。これによって授業の方法や技術について考えようというのが主旨ですが、ふだんあまり交流のない他学部の教員同士や教員と職員がこの機会に親しくなって情報を交換する、という副産物もあります。こうした垣根を越えた交流も、教育・研究をするうえで重要なことだと考えています。



## 8 臨時講師

科目の特質を考慮して必要と認められた場合に、学外から主として実務的な分野で活躍しておられる方に来ていただいて、臨時講師として授業時間中にお話を伺っています。特に学外の施設・機関での実習に関わる科目では、その準備段階で極めて有益なものです。

## 9 助手制度

本学には多くの助手（約80人）がいて、研究室業務のかたわら、学生の生活指導にあたっています。助手の多くは本学の卒業生で、本学のことを熟知しています。学生にとっては、学生の立場で考えてくれる最も身近で最も頼りになる存在です。

## 10 ゼミナール研究旅行

主として卒業年次の多くのゼミナールで研究旅行を行っています。すでに進行中の卒業論文について指導を受け、また友達同士で悩みを打ち明けあって、そこから新たな希望と活力を得ています。学生生活のなかでひととき新鮮やかな思い出を残す行事です。



## 11 総合文化研究所

専任の所員および事務職員によって構成されている本学附設の研究所で、共同研究、個人研究、研究成果出版などに助成金を出していますが、講演会や展示会を随時行って、教育機関としても機能しています。学生はそれらの講演会に参加したり展示の前でひとときを過ごしたりして、多くのことを学んでいます。

## 12 女性学

学問や教育には「男性向け」とか「女性向け」とかいうことはありえません。本学は女子大学ですが、「女性向け」の教育をしているわけではありません。しかしながら、本学に置かれている科目のなかで、共通教育科目の「女性と社会」、あるいは専門科目の「ジェンダー論」「女性と文芸」「子どもとジェンダー」などに、本学ならではの深い意味を読み取らないわけにはいきません。

本学は明治19年（1886年）に職業による女性の自立を促すことを根本理念として創設されました。その設立趣意書は、当時の女性の社会的立場を述べたうえで、「その惨（いた）ましさいはん方なし」と断じています。この趣意書の全体を貫く語調の激しさに胸を衝かれないではられません。本学は設立の趣旨を守り、強い意志をもって教育にあたっています。



## 13 履修中止制度

個々の学生が履修して得た授業科目の成績を評点に換算し、科目の成績評点に単位数を掛けた値の合計点を登録科目の総単位数で割ったものをGPA (Grade Point Average = 評点平均値) と呼びますが、このシステムを本学でも平成24年度入学生から適用しています。この制度を導入するにあたり、これをより効果的に、そしてより教育的に運用するために、アカデミックアドバイザー制度を設け、学生の修学上の指導を強化していますが、これに伴い、授業開始4週目経過後の一定期間内に「履修中止期間」を設けました。学生は履修を中止したい授業科目がある場合、アカデミックアドバイザーに履修相談をし、認められた場合に中止できます。この中止によりGPAが下がることを避けることができます。

### 1 kyonet

校内の教育支援のためのネットワークシステムを、本学ではkyonet（教育ネットワークの略）と呼んでいます。これを通じて、教務課や学生課などが個々の学生に連絡を取ったり、教員が学生の出席やその他の情報を把握したり、授業の課題を出したり、学生がワードやエクセルで書いたレポートを先生に送ったりします。大学が組織として一人ひとりの学生を支援していける体制をkyonetにより構築しています。緊急事態が発生したときの連絡や所在確認にいかん威力を発揮するかは先の東日本大震災の際に証明されました。学校にとっても学生にとっても強い味方です。



### 2 グーグル・アップス

kyonetを補完するものとしてGoogle Apps for Educationを利用しています。これによって授業資料の展開や課題提出などを行っています。スマートフォンを含むマルチデバイス対応により、いつでもどこでも学習することが可能であり、且つ、自宅での学習を促進することで事前学習・事後学習時間の確保を実質化しています。また、新たな教育環境による新しい授業の創造も効果として期待できます。

### 3 共立シラバス

共立シラバスの特徴は、大学での学習は本来与えられるものではなく自らが行うものであるとの認識から、授業計画に毎回の授業ごとの内容や課題のほか、事前学習・事後学習の指示を載せ、学生が授業全体の見通しを持って準備ができるようにしていることです。また、このほかにその科目を修了するとなにが身に付くのかを学生の視点から記載し、授業の到達目標を明確にするとともに履修科目を選ぶ際の参考となるようにしています。



### 4 出席管理システム

各教室のドア近くの壁に設置してあるカードリーダーに学生証をかざすと出席が記録されるシステムです。これによって大人数の授業でも出席をとる労力と時間が省かれることになりました。学生も自分の出席が確かに記録されたかを気にしなくてもすむようになりました。また、出席が足りない学生に対しては早めのケアが可能となり、学生の保護者が学生の所在を確認しようとするときにも容易に対応できます。もちろん、ただ機械的に出欠をとるだけでなく、授業担当教員が諸般の事情を考慮して調整する余地を残してあります。



### 5 クリッカー

本学ではアクティブ・ラーニングを推進する一助として、教員の希望に応じて、学生がリモコンを使って授業に参加するための「クリッカー」という機材を導入しています。授業中に教員が選択式の問題を出し、学生がそれぞれの手元にあるクリッカーの番号を「クリック」して回答します。回答結果はその場ですぐに集計され、グラフなどのかたちで教室のスクリーンに映し出されます。教員はこのシステムによって学生の理解度を確認しながら授業を進めることができます。また、クリッカーの使用が、学生の主体的な授業への参加を促すきっかけとなっています。

### 6 学内限定 Google+ (グーグル・プラス)

Google Appsの機能の1つである学内限定SNS「Google+」を使って、学外への情報流出を確実に防ぎながら、新たな仲間を見つけたり、仲間同士で簡単に情報共有したりすることができます。コミュニティは誰でも自由に作成することができ、同じ趣味や目的を持った学生と教職員が活発に情報交換を行っています。このコミュニティを同好会・サークル・イベント等の交流補完ツールとして使うことで、更に充実した活動が期待できます。

### 7 インフォメーションPC

本館、3号館のロビーと、本館、2号館学生ラウンジ、図書館各フロアなどに、インフォメーションPCが計42台設置されています。主にkyonet（学内webシステム）や学術情報検索用として利用されていますが、インターネットやMicrosoft Officeなど、自由に利用することが可能です。また、学生証をICカードリーダーにかざすことで、学生自身のポータル画面に自動的にログインできる「クイックkyonet」を使用することもできます。インフォメーションPCからの印刷については、オンデマンド機能により、情報演習室のプリンタから出力することができるようになっています。



## 8 e-learning英語塾

希望した学生に専任教員が作成したテキストをkyonet（学内webシステム）で送信する英語の講座を開設しています。無料ですが、単位にはなりません。半期で6～8回、年に2講座です。各講座で、「日本昔ばなし講座」「ジョーク講座」「クールジャパン講座」などのテーマを設けています。学生は毎回の小テストの解答を返信し、得点が基準に達すると講座修了証書が発行されます。



## 9 情報センター

情報センターでは、学内の情報システムの管理・運営をする一方で、個々の学生の情報機器利用に関する質問を受け、きめ細かい指導を行っています。

さらに、新入生を対象とする本学情報設備の利用方法についてのガイダンスの実施、ノートPC（無線LAN対応）とPC周辺機器の貸し出し、Macintoshの基本的な使い方の講習会の年間2回開催、情報演習室の印刷をどのプリンタからも出力することを可能とするオンデマンドプリントシステムの管理などを通じて、高度な情報社会に適應できる学生を育成するように努めています。

## Ⅲ 正課外教育

### 1 正課外活動評価制度

大学での学びは授業内だけに尽きるものではありません。サークルへの参加やボランティア活動、各種の学内講演会や委員会への参加など、正課外の活動を通じて学ぶことは大学生生活をいっそう有意義にするために重要なものです。本学では個々の学生のそれらの正課外活動を記録する制度を実施しています。学生の指導のために活用するとともに、就職活動の際に学生自身が自己PRに役立つようにしています。

### 2 自己開発単位認定

春・夏の海外研修を含めて、学生が授業外で行った勉強や活動などが、審査のうえ自己開発単位として認められます。

### 3 英会話ルーム

毎週木曜日の17時からの90分、ネイティブの教員のもとに学生が集い英会話を楽しめます。自由参加で、費用も申し込みも不要です。これから留学を考えている人、あるいは留学から帰った人のほか、英会話を就職に役立てたい人などが多く参加しています。先生がとても優しいので、リピーターも多いようです。



### 4 共立祭運営委員会宿泊研修

毎年10月に開催される共立祭に向けて、各公認団体からの選出委員および有志委員から成る共立祭運営委員会が立ち上げられます。それらの委員たちが夏季休暇中に研修センターを利用して、合宿研修を行います。委員同士の意思の疎通を図り、チームワークスキルの向上を目指します。



### 5 共立祭企画評価

共立祭参加団体による各種企画を教員・職員・学生の代表者約60名が見て回り評価します。正課外活動の励みにしてもらうことが目的で、展示部門とパフォーマンス部門からそれぞれ優秀団体を選出し表彰します。

### 6 共立アカデミー

本学が設けている正課外講座です。教養文化、語学、資格検定、就職対策、健康、鑑賞会、実技等、学生の将来に役立つさまざまな講座を開講しています。授業の空き時間を利用して安価に学ぶことができるため、多くの学生が受講しています。毎年、講座を拡充し、現在では約220の講座が開講されています。生涯学習の場として、一般の方々にも受講していただいています。



### 7 入学前教育

主としてAO・推薦で本学への入学が決定した人たちを対象として入学前教育を行っています。これは、はやばやと入学が決まってしまった人たちの入学までのモチベーションを維持し、基礎学力の向上を図ることで高校生活を充実させ、より良い大学生活のスタートが切れるようにすることを目的としています。各学部によって方法は異なりますが、原則として、12月に大学から課題を出し、3月に提出されたものを添削して返却しています。

### 8 リーダーシップ研修会

学内外から指導者を招き、公認学生団体（公認サークル）の幹部学生に対して、リーダーシップについて学ぶ研修会を行っています。グループワークを中心とした内容で、活発な討議を重要な要素としています。



## 9 チームワーク研修

公認学生団体（公認サークル）を対象に、チームワークスキルを学ぶ研修会を行っています。希望する団体が複数人で受講し、コミュニケーション、価値観、コンセンサス、意思決定などについてグループに分かれて討論し、さらにチームワークスキルを高めるための演習をします。



## 10 講演会

本学は学生が自由に聞くことのできる講演会を数多く開催しています。各学部学科が主催するもの、総合文化研究所が主催するもの、学生課、就職進路課が主催するものなどさまざまですが、いずれも学生はその所属や学年に関係なく聞くことができます。本学は木曜日5時限に授業を置かず、学生の正課外活動の便宜を図っていますが、講演会の多くもこの時間を利用して行われます。



## IV 学生生活支援

### 1 奨学金

日本学生支援機構奨学金やその他の公共事業団体奨学金などの貸与奨学金の他に、本学独自のものとして、本学卒業生や旧教職員からの寄付金に基づく7つの給付奨学金があります。教員から成る学生委員会他の委員会が奨学生の選考にあっています。

### 2 実務体験奨学金

勉学意欲があるにも関わらず就学が困難な学生に対して給付する実務体験を伴う奨学金です。本学事務局で1年間にわたり、授業に支障のない時間帯で計180時間の補助的な業務をします。年4回の研修会や学内行事への参加などもあり、学生の社会人基礎力を育成する「学内インターンシップ制度」とでもいうべきものです。



### 3 学内アルバイト

在学生家族懇談会やオープンキャンパスなどの学内行事に際して、本学学生がキャンパス案内や学生生活に関する質問への対応などの業務を担当します。これによって、学生の本学への帰属意識も高まるようです。

### 4 学生相談室教員相談員

学生相談室には専門の心理カウンセラーがいますが、それとは別に、教員が務める学生相談員がいます。学生生活や授業に関することなど、学生が気軽に相談できるよう窓口を開いています。相談というより、先生と会話を楽しむぐらいの気持ちで来てくれればちょうどいいと思います。友達と一緒に来ることも歓迎です。



### 5 キャンパスハラスメントへの対応

キャンパスハラスメントとは、セクシャルハラスメントやアカデミックハラスメントなど、キャンパス内で起こりうるあらゆる形態の人権侵害を指します。本学では人権委員会を設置し、学生の相談窓口となる教員の窓口委員を設けて、被害の防止を図るとともに救済の道を拓く体制を整えています。これらについては、リーフレット「ストップ・ザ・ハラスメント」を発行して、学生・教職員に広く周知しています。

### 6 デジタルサイネージによる情報発信

学内の各建物にデジタルサイネージを設置し、常時、掲示板として学内イベントなどの告知をするほかに、共立祭や音楽祭などの催し物、海外研修、講演会などを記録した動画や静止画を映し出して、本学の生の姿を学内外の人々にお見せしています。また、これによって、緊急災害発生時にはテレビニュース等の情報を収集・発信できる体制を整えています。



### 7 学生生活実態調査

学生生活の実態を把握し学生生活の充実をはかるため、全学生を対象に2年に1度、学生生活実態調査を実施しています。調査の結果は学生にkyonetを通してフィードバックされます。さらに、調査の結果について教職員から成る学生委員会を中心として分析と検討を行い、学生生活をより豊かなものにするように努めています。

## V 学生関連施設

### 1 学生寮

東京都杉並区に本学の学生寮「ナチュラル杉並」があります。平成17年に完成した全243室の近代的なマンション仕様の建物で、留学生を含む学生たちが生活しています。管理人による24時間管理態勢をとっています。また、全室個室でプライバシーのある空間が保てます。寮生同士の交流も盛んで、毎年、懇親会が行われています。



### 2 研修センター

軽井沢と河口湖畔に研修センターがあり、学生がゼミナールやクラブ活動の合宿をしたり、教職員が休暇を過ごしたりする時に利用しています。いずれも抜群の自然環境の中にあり、しかも交通至便の地にあります。1年を通して利用することができます。これらとは別に東京都杉並区にも研修センターがあり、こちらは1日単位のクラブ活動や公開講座などに使用しています。



### 3 八王子キャンパス

本拠とする神田一ツ橋キャンパスのほかに八王子市にキャンパスがあります。図書館、体育館、陸上競技場、テニスコート、ゴルフ練習場、講堂、宿泊棟などを備え、正課外での学生の体育・文化活動のために使用しています。また、公開講座やスポーツ教室などを主催して一般市民の方々にもご利用いただいています。



### 4 戸田艇庫

本学は荒川の戸田オリピックコース沿いに艇庫を持っている唯一の女子大学です。神田一ツ橋キャンパスから1時間足らずという好立地にあり、ボート部員・カヌー部員は学業と部活動を無理なく両立させています。平成25年に耐震補強を兼ねて艇庫の全面改装を行い、いっそう快適になりました。



## VI 障がいのある学生への支援

### 1 ノートテイク講習会

聴覚障がいのある学生のために授業中の音声情報をノートに取る技術を学ぶ講習会を毎年実施しています。ノートテイクを必要とする学生の有無に係わらず実施し、いつでも対応ができるよう努めています。



### 2 点字サービス

自動点訳ソフト、点字文書作成ソフト、点字プリンター、立体コピー機、点字ディスプレイなどを一室に揃え、視覚障がいのある学生が授業その他の学生生活を円滑に送れるように配慮しています。

### 3 バリアフリー

本学は完全バリアフリーになっています。車椅子の学生が外から校舎に入り、授業を受け、クラブ活動を行うにあたって支障がないよう、構造や設備の面での配慮を徹底しています。トイレについては、車椅子専用のものを本館2か所に設置しています。

### 4 支援チーム

支援を必要とする学生の入学が決定すると、教員と教務課、学生課、管財課、情報センター等の職員が支援チームを作り、準備を整え、また入学後は学生生活が円滑に行えるよう随時会合を開いて検討し、実際的な支援にあたっています。



## Ⅶ 学生の活動

### 1 共立祭

毎年10月なかばの土曜・日曜に行われる本学の学園祭です。本館1階ロビーに設置される特設ステージでは途切れることなく公演が行われます。その他、グラウンド、多数の教室を使って、音楽サークルの演奏のほかに、狂言やミュージカルの上演、ファッションショー、チアリーダーや競技ダンスのデモンストレーションなど多彩な発表が行われます。

そのなかでも、20年近く続いている本学独自の企画として、ブライダルショーがあります。本学の卒業生で世界のブライダルファッションデザイナー桂由美さんの指導を頂きながら行うブライダルショーです。桂さんのデザインによるウェディングドレスを本学学生が着て、多くの友人たちのうっとりした視線の中を歩きます。

展示は、文化系サークルの発表のほかに、デザイン系の演習クラスの発表があり、見応えがあります。



### 2 新入生歓迎会

新入生オリエンテーション期間中に、学内公認団体の代表であるサークル連合会主催で新入生歓迎会を実施しています。サークルの発表等の企画で、これからの学生生活への期待を盛り上げています。



### 3 学内レガッタ

新入生歓迎を兼ねて、毎年5月の連休中に、荒川の戸田オリンピックコースで、学内ボート大会が行われます。学生だけでなく教職員も参加でき、4人1組でレースに参加します。競技用ボートを漕ぐのは初めてという人がほとんどですが、レース前の練習ですぐに慣れ、ボート選手になった気分で楽しんでいます。ボート部員がコックスを務めるなどして大会運営にあたります。



### 4 共立音楽祭

11月半ばの1週間、昼休みと夕方に校舎1階ロビーを会場として、共立音楽祭が催されます。この時はロビーが華やかな音楽サロンとなります。音楽サークルに所属している学生はもちろん、それ以外の日頃楽器に親しんでいる学生、卒業生、教職員などが、演奏します。司会は放送研究部の学生が担当します。よく知っている人の意外な一面を発見する楽しみがあります。



### 5 学生プロジェクト

学生の自主的で健全な正課外活動を促進することを目的に、学生自身が企画・運営する正課外活動のプロジェクト型企画です。「散歩」「学食応援隊」の各テーマのほか、自由テーマでの企画も募集し、学生の柔軟な発想を存分に発揮する場となっています。

### 6 伝統文化企画

学内サークルには箏曲部や陶芸サークルなど日本の伝統芸能を対象としたものがいくつかあり、それらのサークルに、時期を定めて、校舎ロビーでの発表の機会を提供しています。学校全体が雅やかな雰囲気です。

また、伝統文化企画の一環として、「合同華道展」も行います。学内サークルとして「池坊」「小原流」「古流」「草月流」の4つの華道部があり、それらのサークルに校舎1階ロビーで生花の「競演」をする機会を提供しています。



### 7 美術館・博物館キャンパスメンバーズ

本学は「国立美術館キャンパスメンバーズ」および「東京国立博物館キャンパスメンバーズ」に加入しています。本学の学生は、学生証を呈示することで、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、国立新美術館の常設展を無料で、企画展を割引料金で、観覧できます。東京国立博物館では総合文化展の無料観覧などの特典があります。

## Ⅷ 保護者との連携

### 1 新生保護者説明会

現代の大学教育は学生のご家族の理解・協力なしには十分な効果をあげることができません。そのため、入学式の後に、引き続き講堂で保護者説明会を実施しています。学長をはじめ教務課・学生課・就職進路課の担当者が、単位履修や学生生活などについて、説明します。

### 2 在學生家族懇談会

本学神田一ツ橋キャンパスをはじめ、東京以外の地域にも会場を設け、学生のご家族にお集まりいただき、学生生活や就職支援のあり方について説明し、疑問や不安を解消していただいています。ご希望によっては個々の学生の就学状況をお知らせすることもしています。学生もさまざまなかたちでこれに参加しており、在学生の声が聞けると好評を得ています。



### 3 授業見学会

6月の1週間を定めて、授業見学会が行われます。これは教員がお互いの授業を見合っ、FD活動の一助とする、ということと同時に、学生のご父母や公的機関・企業の関係者に授業を公開することによって本学への理解を深めていただく、というものです。学生のご父母に見ていただくといっても、高校までのいわゆる授業参観とは意味合いが違いますから、お子さんの授業を見る必要はなく、それぞれ興味のある授業を見学し、学生時代に戻って楽しんでいただいています。



### 4 kyonet保護者アカウント

本学では個人情報保護の観点から保証人の方への成績送付は行っておりませんが、kyonet（学内webシステム）に設けられている「保護者アカウント」に保護者の方が（学生本人の承諾を得たうえで）お申込みになりますと、ご自宅のパソコンでお子さんの成績、時間割、出席状況などを見ていただくことができます。

### 5 後援会

在学生の保護者の方々に構成されている、本学の教育を支援するための組織です。各種の行事に際していろいろなかたちでご助力いただいておりますが、本学としても、この組織を通じて保護者の方々と緊密なつながりを保っています。

## Ⅸ 図書館・博物館

### 1 KWU分類による配架

図書館の配架方法は、専門書を中心とする4階をNDC分類で、学生に利用を推奨する資料を中心とする3階を本学独自の分類方法によるKWU分類で配架しています。KWU分類は本学のカリキュラムに即した9つに分類され、学習との関連性がわかりやすくなっています。



### 2 デジタル図書館

本学図書館で購入・契約している電子図書、eジャーナル、データベースの利用に加え、学術情報や所蔵資料の検索も、自宅から図書館のホームページにアクセスし、利用、検索が可能となっています。さらに、図書購入リクエストや文献複写システム等の図書館に関する各種申込やお知らせはWeb上で行うことができ、教員の研究活動や学生の卒業論文、レポート執筆に大いに役立っています。

### 3 ラーニング・commons

ラーニング・commonsとは、様々な方法で能動的に学修にできる学修空間です。留学生との交流の場である「グローバルcommons」、ICT機器を利用した学修に最適な「デジタルcommons」、大きな机や模造紙といった発表資料作成が可能な「クリエイティブcommons」、議論の場である「グループ学修室」といった空間で様々な学修が展開されています。

また、学生の自学自習を支援する「ラーニング・コンシェルジュ」を配備し、手厚い学修サポートを行っています。



#### 4 学習支援プロジェクト

予測困難な成熟社会においては、生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力などを大学での学びの中で培うことが求められています。そのために、授業や学修方法を能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換する必要があります。

学修支援プロジェクトは、ICTの利活用における支援を中心として、教材作成支援やkyonetの利用促進、授業やその他の動画コンテンツの作成・配信などを行っています。

また、アクティブラーニングへの転換などの授業改善の試みが常に行えるように、教員の一次相談窓口としての機能も果たしています。専門の職員が常駐して、多様なニーズに対応しています。

#### 5 共立Stand+Up!プロジェクト

ボランティア活動、留学生支援、学内イベント運営、地域活動など様々なプロジェクト活動の支援を行っています。サークル活動との違いは、①一年以内の有期活動であり、②成果発表会をもって活動終了とし、③活動の評価を、メンバー、教職員サポーターとの振り返り、自己評価において行う点にあります。

これらの活動をとおり、前に踏み出す力やチームワークといった社会人として必要な力が身に付きます。



#### 6 学生図書委員会

有志の学生たちが集まり、どんな本が図書館にあればよいかを学生目線で考えたり、図書館をもっと積極的にそして快適に利用するにはどうすればよいかを考えたりしています。結論は図書館長に伝えられ、全学的な方針とされます。



#### 7 共立女子大学博物館

2016年10月、2号館の地下1階に共立女子大学博物館が誕生しました。小規模の展示スペースですが、本学の創立以来、教育研究資料として長年にわたって蓄積されてきた、日本と西洋の服飾美術品を中心とする文化財を多数収蔵しています。今後、これらのコレクションを順次一般公開するとともに、企画展・講演会・ワークショップの開催、博物館実習施設としての活動などを通して、研究成果の社会への還元や教育研究の支援を行っていく予定です。



### X 就職支援

#### 1 面談記録

kyonet（学内webシステム）の中の一つの機能で、個々の学生のさまざまな情報を学内の教職員で共有し、的確な支援を行います。成績や授業の出欠情報などの授業関係の情報だけでなく、所属サークル情報や就職活動情報も記載されており、多面的に一人一人の学生を見ることができます。特に就職活動情報は、個別面談の際、情報を確認しながら行うことで、初めて面接する担当者でもすぐ本題の支援を行うことができ、大きな効果を上げています。

#### 2 進路ガイダンス

大学3年次、短大1年次の前期に進路ガイダンスが始まり、就業意識を高めていきます。その後もガイダンスや各種プログラムが随時開催され、自己理解や職業理解を深めていきます。さらに、就職活動が本格化する前に、書類作成や筆記試験、面接などの選考対策の準備を進めていきます。



#### 3 キャリアカウンセラー

本学就職進路課には資格を持ったキャリアカウンセラーが3名在籍しています。また、専任職員が8名、求人票の入力・掲示・kyonetでの発信などの事務を行っているスタッフも4名います。総計15名のスタッフが就職・進路支援を一丸となって行っています。これは他大学と比較し、学生数に対して非常に多くのスタッフでの対応となっています。個別相談をするのに10日以上先の予約となる大学が多いのに比べ、本学では早くに相談を受けることができます。



#### 4 卒業生との懇談会

本学は長い伝統を持ち、多くの有為な卒業生を世に送り出してきました。企業からも本学出身者は高い評価を受けています。そのような卒業生に、働くということ、企業のこと、自身の就職活動、将来の希望などを、在学生に話していただいています。様々な業種、職種 of 卒業生の話を聞くことで就職活動の役に立てるとともに、キャリア設計の一助としています。



## XI 環境問題

### 1 環境学習

近年、環境問題が大きくクローズアップされ、学校の社会的責任としても取り組むべきテーマになっています。本学には環境に関わる授業が多くあり、また、正課外でもエコツアーや環境関連の講座を実施しています。そのような取り組みをパンフレット「環境学習への取組」にまとめ、環境問題への学生の意識を高めています。

### 3 ビオトープ

本館屋上の一隅に小規模ながらビオトープ（生物生息空間）があります。池にはメダカ、ミナミヌマエビ、カワニナなどの水生生物が住み、池の周りには季節ごとに花を咲かせる約30種類の木や草が茂り、トンボや蝶、セミなども飛んできます。皇居の緑豊かな自然と都心のオフィス街を眼下に望むことができる屋上庭園は、学生が授業の合間や昼休みなどにリフレッシュできる憩いの場となっており、屋上緑化によるヒートアイランド現象の緩和にも寄与しています。



### 5 省エネルギー

教職員から成る省エネルギー推進委員会が、国や都によって定められた温室効果ガス排出基準値を上回らないよう、省エネルギーのための方策を検討し、実行しています。室温や照明の管理をする一方、環境保全の必要性を全学生に訴えています。

### 2 エコ照明

本館西口通用門付近に小さな太陽光発電のパネルがあり、その傍の照明はそれによって電力を供給されています。とても小さな規模ですが、ここを出発点として、エコへの取り組みを大きく発展させてゆきたいと願っています。



### 4 雨水利用

本学に隣接している区道は大雨や台風による冠水が5～10年に1回くらいの割合で発生しています。そのため、本館屋上の雨水をそのまま公共下水道に流さずに、まず地下に設けられた雨水貯水槽に流し込み、地域の雨水流出抑制に貢献しています。それと同時に、貯水槽に貯まった雨水を、塩素で消毒した後にトイレの洗浄や冷温水発生器の冷却に使用するなどして、エコにも貢献しています。



## XII 防災

### 1 防災訓練

火災や地震等の災害に備えて毎年訓練を行っています。

12月初旬に希望者を募り、千代田区役所や神田消防署の指導のもと、起震車や煙ハウスの体験、消火器、消火ホースの使い方、通報訓練、伝言ダイアルの利用方法等を通じて、防災への経験と心構えを身につけます。また、学内の防災設備や備蓄倉庫等の見学も行っています。



### 2 緊急避難訓練

授業時間中に災害が起きたことを想定し、学内に緊急放送をかけ、安全確認シートを用いて学生を指定の避難場所へ誘導する訓練を実施しています。実際に授業時間の一部を使って訓練を行うため、防災訓練とは別に毎年実施しています。当日は神田消防署からのご指導をいただいています。



### 3 防災設備

消防法その他で定められている防災設備を完備していることは言うまでもありませんが、その他に、例えば教室・研究室を含む全室の非常用照明装置や本館地下のスプリンクラーなど、規定外のものも備えて万全を期しています。

### 4 災害用備蓄品

「学生3日分の確保として、乾パン、ビスケット、袋詰ご飯など、食品約4万食、水4万本、毛布およびレスキューシート約5千枚、生理用品約4千個、簡易トイレ約3千個などを常備し、キャンパス内数か所に分散し保管しています。



## 5 千代田区との防災協定締結

千代田区との間で大規模災害時における協力体制に関する協定を締結しています。区民等の安全確保のために神田一ツ橋キャンパス2号館の一部を一時的に条件付きで避難施設として提供し、収容した被災者への3日分の備蓄物資を提供する内容となっています。

## 6 安否確認テスト

大災害発生を想定して学生ならびに教職員の安否確認テストを行っています。3月と9月の年2回、kyonet（本学の教育ネットワークシステム）を通じて実施しています。できる限りの情報を収集することで、迅速かつ効率的な対応策を取れるようにすることが目標です。また、安否確認の取れない学生・教職員を特定することにより、kyonet以外の方法で連絡を取る道も開けます。いざ災害が起こった際に落ち着いて対応できるように、毎回、緊張感をもって実施しています。

## 7 災害時対応マニュアル

大学では、災害発生時の緊急対応体制の準備をはじめ、さまざまな防災対策を行っています。しかし、被害を最小限に抑えるためには、大学の対応は勿論ですが、学生一人ひとりの日頃からの心構えが必要です。

いざという時に慌てず落ち着いて必要な行動をとることにより災害から身を守ることができるよう普段からの心がけも含めて「災害時対応マニュアル」を作成し、常に携帯するよう学生手帳に挟み込み配布しています。



# XIII 国際交流

## 1 国際交流委員会

海外経験の豊富な専任教員によって構成される委員会で、海外との研究交流や提携校との連絡・交渉、学生の長期留学や海外研修の企画・選考などについて協議します。

## 2 国際交流室

国際交流活動全般を支援するために設けられています。常駐の2人の職員が学生の相談相手となるなど、留学に関するサポートを行っています。海外留学を考えている学生はここに足繁く通うことになります。また、海外からの留学生にとっては、母国とつながっているように感じられる部屋です。

## 3 留学制度

本学学生が海外の大学に留学する制度には、交換留学、派遣留学、一般留学があります。

交換留学は協定校とのあいだで留学生を交換するものです。派遣留学は、提携校へ学生を派遣することに限定したプログラムです。一般留学は学生が自ら留学先を選び、本学の許可を得て留学するものです。いずれも留学先の大学において修得した単位のうち、申請して認められたものは卒業要件に必要な単位として認定されます。



## 4 交換留学

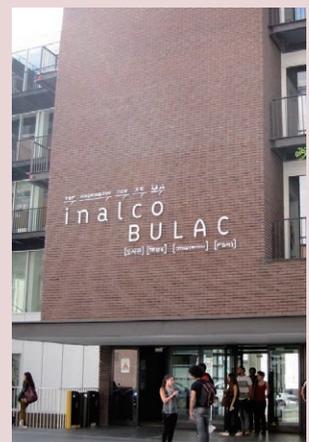
フランスのイナルコ大学（東洋言語文化学院）、スイスのジュネーブ大学、および中国人民大学と協定を結び、毎年数名ずつを交換しています。双方の学費が免除となり、宿舎については受け入れ側が用意することになっています。本学への留学生は学生寮「ナチュラル杉並」で一般の寮生と一緒に学生生活をエンジョイしています。

## 5 イナルコ大学（交換留学・フランス）

17世紀に創立されたイナルコ大学は、語学教育において長年の実績を持つ大学で本学とは毎年2名ずつの交換留学プログラムを実施しています。日本語学科を有し日本語、日本文化研究の分野においてはヨーロッパでも最大級の教育・研究機関で、受入れの留学生は流暢な日本語を話します。本学からの留学生はフランス語修得を中心とした研修を行います。

## 6 ジュネーブ大学（交換留学・スイス）

ジュネーブは国連や赤十字などの機関が置かれている国際都市で、フランス語圏ながら英語にも触れる機会が多い環境にあります。本学から派遣の交換留学生のうち1名に、ジュネーブ大学からおよそ9ヶ月分の生活費に該当する奨学金（約100万円相当）が支給されます。



## 7 中国人民大学 (交換留学・中国)

北京市内にある、人文・社会学系では中国トップクラスの大学で、広大なキャンパスには、一つの町のように生活に必要な店や施設があり、安全な環境が整っています。本学から派遣の交換留学生には中国人民大学から奨学金が支給され、宿舎も無償で提供されます。



## 8 派遣留学 (全学対象)

本学は海外に留学生を派遣するためにアメリカ、カナダ、イギリス等の大学と提携しています。これらの大学に半年ないし1年留学することができます。

## 9 アメリカ・セントラルワシントン大学 (派遣留学・アメリカ)

ワシントン州郊外の州立大学で、大学のあるエレンズバーグは風光明媚で、比較的治安も良いため暮らしやすい土地柄です。本学学生の大半は大学寮に滞在してUESLプログラムで語学を学んでいます。UESLプログラムでは能力別に5段階にクラス分けされます。レベル5の学生は条件付きで学部授業の聴講が可能となり、文化人類学や地理学、心理学などを学んで帰国しています。



## 10 ウィネペグ大学 (派遣留学・カナダ)

自然豊かなマニトバ州の公立大学で、本学学生は原則、全期間ホームステイにより滞在しています。3学期制のため、5月上旬~12月中旬まで、または5月上旬~3月中旬までのどちらかの期間を選択し留学しています。Academic English Program の上級(レベル5)に所属する学生は学部の授業を履修することができます。



## 11 リーズ大学 (派遣留学・イギリス)

ヨークシャー州リーズにある国立大学で、イギリス有数の歴史と規模を誇ります。リーズは工業と金融で知られ、ロンドンにも比較的アクセスが良い活気ある都市です。本学学生は英語力を伸ばすGeneral English コース、あるいは語学留学後、学部の授業に参加するStudy Abroad Programmeを受講します。いずれの場合も、応募に際し他の提携校に比べ高い語学レベルが必要となります。



## 12 オックスフォード・ブルックス大学 (派遣留学・イギリス)

イギリスで最も有名な学園都市オックスフォードにある私立大学で、新設大学として長年トップクラスの評価を得ています。治安・交通の便ともに良く、世界中の学生が集まって多国籍文化を形成しています。派遣留学では、英語コースの場合、IELTSスコア4.5以上、またはそれに準ずるプレイスメントテストでの合格が受講の条件となります。



## 13 バーミンガムCIC (派遣留学・イギリス)

CICはCollege for International Citizenship (国際市民コレッジ) の略で、バーミンガム市にあるアストン大学やバーミンガム大学などいくつかの大学プログラムが集まってできたユニークなプログラムです。前半に語学を集中して学び、後半にはコアプログラムとして市民学や政治学などを学ぶ独自のスタイルでの授業が用意され、クラスごとに研究活動やプレゼンテーションなどを行っています。



## 15 国際交流奨学金

本学には海外への留学制度推進のため、交換留学、派遣留学、一般留学および海外研修のための国際交流奨学金制度があります。この奨学金は返還の必要はありません。交換留学および規程留学奨学金は、1年間留学の場合、年間授業料の半額分、半年留学の場合は、年間授業料の4分の1を選考の上、給付します。海外研修奨学金は1名あたり5万円を本学学業成績により給付します。

## 14 私費外国人留学生授業料減免制度

本学に在籍し、経済的理由で修学が困難な私費外国人留学生に対して、選考のうえ、授業料減免措置をとっています。

## 16 櫻友会TOEIC奨励奨学金

英語圏留学の成果に対し授与する給付型奨学金。TOEIC スコア700点以上の応募者の中から上位4名に、1名50万円が櫻友会から給付されます。留学中の努力を奨励し、その成果を湛えるもので派遣者のレベルアップにも繋がります。

### 17 夏季海外研修 (全学対象)

本学の夏季研修は、英語圏 (アメリカ・ハワイカピオラニカレッジ)、中国語圏 (北京大学)、フランス語圏 (フランス・アンジェ西部カトリック大学) で実施しています。それぞれの語学を中心として、その国の文化を幅広く学ぶと同時に、現地の大学生や市民との交流を通じて国際親善にも努めています。

252

### 18 ハワイ大学カピオラニカレッジ (夏季海外研修・アメリカ)

アメリカ研修開始から約15年間、アイビーリーグのペンシルベニア大学で実施し、以降はハワイのカピオラニカレッジにおいて、ここ数年30名程度の学生を派遣しています。



253

### 19 北京大学 (夏季海外研修・中国)

中国の名門大学である北京大学が実施する語学研修に、本学学生が参加する形で実施しています。緑に囲まれた伝統的



な建築様式と近代的な建物が調和しながら混在するキャンパスは燕園と呼ばれ、広大な敷地を誇っています。研修中最初の1週間は、引率教員が同行します。

### 20 アンジェ西部カトリック大学 (夏季海外研修・フランス)

アンジェはフランス西部のメヌ河畔に位置する可愛らしい雰囲気のある街です。研修中はスタッフによりきめ細やかにサポートされ、ホスピタリティあふれる大学院生が生活をともにすることで参加学生との交流を行っています。語学講習終了後のパリへの小旅行も大変魅力的です。



254

### 21 春季海外研修 (全学対象)

学生の希望者を募って、春季休暇中に語学を中心とした研修を行っています。春季休暇は気候もよく、授業からの制約もないので、海外研修にはうってつけです。今後、研修先を増やすことを検討しています。

### 22 クイーンズランド大学 (春季海外研修・オーストラリア)

自然豊かなブリスベン郊外にあるオーストラリア屈指の名門大学で、春季休暇を利用して行う3週間のプログラムです。本学の提携校でもあり、毎年40名弱の学生が参加しています。滞在は、全期間ホームステイで授業以外にもファミリーと英語でのコミュニケーションをとることができ、大変人気のプログラムです。



257

### 23 海外インターンシッププログラム (上級者用プログラム)

オーストラリア・クイーンズランド大学において、前半は集中的に語学力の向上を図り、語学力が規定のレベルに達したところで、インターンシップに参加します。インターンシップの派遣先は観光、行政、教育など多種多様であり、授業内で職場での実用的なスキルについて事前に学ぶことができ、就職活動に向けても貴重な体験といえます。応募には、通常より高いレベルの基準が設けられており、この留学の派遣者には規程留学奨学金が給付されます。



キャリアアップを目指す

## 24 ペンシルベニア大学協定校派遣留学（上級者用プログラム）

アメリカ・アイビーリーグの名門ペンシルベニア大学への留学プログラムで、応募には通常より高いレベルの基準が設けられています。この留学プログラムの派遣者には、本学とペンシルベニア大学の協定に基づき、現地授業料が一部減額されるほか、本学規程留学奨学金が給付されます。



## 25 国内留学プログラム -ブリティッシュヒルズプログラム【宿泊型】

広大なブリティッシュヒルズの教育施設において、英語+体験型の生きた英語を学びます。レッスンの合間にはヒルズ内で講師とともにアクティビティを体験するなどたくさんの工夫が施されており、アフタースーンティや英国式テーブルマナーも体験することができます。



## 26 国内留学プログラム -国内英国留学 in Kyoritsu【通学型】

費用面、安全面を配慮し参加しやすい環境の中で英語漬けの6日間を過ごします。短期集中型プログラムで実社会においても有益なスキルを磨きます。最終日の修了式では参加者全員がプレゼンテーションを行い6日間の成果を発表します。



## 27 日本語教育プログラム

日本語力のまだ不十分な交換留学生や特別留学生などの短期留学生に対し、日本語教育の支援プログラムを提供しています。日本語講師による文法、文章表現、新聞記事の読解などの授業を行い、最終的には日本語でプレゼンテーションができるようになるよう、きめ細かな支援を行っています。



## 28 国際交流チューター制度

学生を募り、海外からの留学生の手助けをしています。チューターは、前述の日本語プログラムを更にサポートするための日本語サポートチューターと、生活全般を支援するキャンパスサポートチューターの2つに分かれます。日本語サポートでは、読み書きを中心に漢字やことわざを習得するための練習問題などを行い、キャンパスサポートでは、定期券購入に始まり、サークルへの加入、履修相談、学外での文化活動など、留学生が快適な留学生活を送ることができるように学業、生活の両面から支えています。これは本学の学生にとっても異文化交流の機会となり、視野を広げるうえで役立っています。



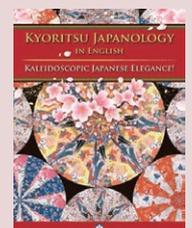
## 29 留学生懇談会

5月に歓迎を兼ねて、海外からの留学生と一般学生が学生食堂で交歓会を催します。授業などで留学生と関わりの深い教員も多数参加します。本学は留学生との間に国際情勢に左右されない確固とした友情を築き上げるよう努めています。



## 30 KJE (Kyoritsu Japanology in English)

KJEは、海外に住む女子大学生または女子大学院生（現在日本の大学に留学中の学生、海外大学をすでに卒業した方を含む）を対象とした、日本の文化を英語で学べるプログラムです。文学、社会、国際貢献、美術、環境、歴史などの日本の教養に加え、音楽、華道、箏曲、茶道、狂言、能、マンガ、アニメなど様々な日本文化を体験することができます。



## 31 外国人科目等履修生

外国人が日本に関する授業や本学独自の魅力ある授業を数科目単位で履修することができ、積極的に受入れています。2014年度はスイスチューリッヒ大学、サウジアラビアからそれぞれ1名受入れ、2015年度9月からは同大学より2名の科目等履修生を受入れました。他大学に在籍する留学生や日本に在住する社会人も本学で学ぶことができます。



## 32 フルブライト訪問団

毎年6月にアメリカのフルブライト日米教育委員会の代表者（約10名）が本学を訪問し、本学の理事長、学長、学部長、科長、国際交流委員長等と、国際交流やグローバル教育のあり方について意見交換します。およそ20年前から続いています。席上で、本学の教育について踏みこんだ質問が出されますので、本学としても大いに参考になります。代表者の方々はキャンパスを回って、授業を見学したり、学生食堂で学生たちと（もちろん英語で）懇談したりして、本学で過ごす時間をエンジョイしています。



## 33 『共立インターコム』

国際交流のための機関誌 Kyoritsu Intercomを毎年発行しています。これによって本学の留学制度、国際交流活動の紹介を行っており、本学在学生の保護者および全国の高等学校へ送付しています。在学生にとってもより現実的に留学を検討できるきっかけとなっています。将来的にはこれを通じて留学経験のある卒業生ともリンクし、情報を共有・交換することで、本学を目指す高校生、在学生、そして卒業生など、各世代が連携した国際交流活動を推進したいと思っています。



## 34 中国

本学は早くから中国との交流の重要性に着目し、1991年の東北電力学院を皮切りに、東北師範大学、北京大学、北京清華大学、西安交通大学など、計10大学と協定を結んできました。これまで、留学生や教職員研修団の派遣、訪問団の受け入れ、共同研究など、地道な交流を重ねてきました。これからも中国との絆を大切にしたいと考えています。



## 35 ベナン共和国

2006年7月に西アフリカのベナン共和国大統領ご夫妻が本学を訪問されたことから、本学とベナンとの親交が始まりました。それ以後、毎年、ベナンから留学生を迎えています。2012年3月、本学は特使として本学のフランス人教授ほか数名をベナンに派遣し、歓迎を受けました。2013年7月には本学において駐日ベナン大使夫人（本学へのベナンからの最初の留学生でもありました）の講演、およびベナンのプロ演奏家によるジャンベ（西アフリカの民族楽器の太鼓）の演奏が行われました。



## 36 インドネシア

2013年9月、文芸学部教授がインドネシアのマラナタキリスト教大学で能面の作品展と仮面文化に関するワークショップを開催、翌年には本学において仮面展覧会が開催されました。「ワヤン」と呼ばれる曼荼羅画はインドネシアの神話をもとに作られており、本学とマラナタキリスト教大学との交流が協定を前提として深まりつつあります。



## XV 社会との連携

### 1 共立講堂

後に東京タワーを設計した内藤多仲氏の設計により、昭和13年に落成しました。戦前はもとより、戦後も日比谷公会堂と並んで音楽公演のメッカでした。共立講堂で公演した国内外の有名演奏家は数知れませんが、年配の方々にとっては若いころの幸福な思い出に繋がる場所です。昭和31年に全焼しましたが、翌32年に再建されました。平成19年の改修工事にあたっては、昭和13年当時とできるだけ近い状態となるように配慮されました。現在は一般への貸し出しは行っていないが、本学主催の講演会その他の催し物には学外から大勢来られて、「文化財」と言ってもいい共立講堂での時間を楽しんでおられます。



### 2 公開講座

本学では昭和56年以来、毎年実施しています。現在、神田一ツ橋キャンパス、八王子キャンパス、研修センター杉並寮の3会場で実施しています。高等教育機関としての大学の知的財産を活用した講座を通して、地域へ、また広く社会へ貢献したいと考えています。

### 3 活字文化特別セミナー

毎年秋に行われる「神保町ブックフェスティバル」に合わせて、読書や活字文化に関わるテーマを設定して、読売新聞社と共催で、講演会やシンポジウムを共立講堂で行っています。本学教員および本学学生がシンポジウムに参加することが近年の通例となっています。



#### 4 ボランティア情報コーナー

本学は学生のボランティア活動を奨励しています。キャンパス内にボランティアコーナーがあり、教員から成るボランティアセンター運営委員会によって運営されています。ボランティア活動に意欲のある学生が利用しています。

#### 5 映画テレビ撮影協力

テレビドラマや映画の撮影に施設を貸し出しています。本学の施設には新しい部分と比較的古い部分とがありますが、その両方が関係者の方々には魅力的に映るらしく、貸し出しは頻繁です。大学名がクレジットとして表記されることによるPR効果だけでなく、在学学生、卒業生が本学への親しみをより強く感じられることにも繋がっています。また授業の一環として、本学学生が撮影現場を見学することもあります。

#### 7 立地との関わり

本学は明治19年（1886年）に創設され、その翌年にここ神田一ツ橋地区に移って以来、この地で教育活動を展開してきました。地域に根づいた大学としては最も古いと言えます。近代的かつ躍動的なビジネス街のただ中にありながら、皇居平川門と神田古書店街までそれぞれ徒歩数分、武道館と秋葉原電気店街までそれぞれ徒歩20分という「地の利」に象徴されるように、本学は伝統と革新の双方を見据えながら活動しています。この地を守るこそ、本学独自の取り組みの原点に位置するものです。本学は「地域の大学」としての榮譽と責任をこれからも担い続ける所存です。



#### 8 地域連携委員会

本学には主として教員から成る「地域連携委員会」があり、地域との連携を協議し、実践しています。千代田区との連携は言うまでもないこととして、近隣地域には古書店・新刊書店・出版社等が集まる本の街の神保町、秋葉原周辺の電気店街、明治39年まで日本の中心的鉄道であった甲武鉄道の万世橋駅前として栄え今でも老舗店舗が残る淡路町・須田町老舗街、御茶ノ水周辺の楽器店街、小川町のスポーツ用品店街などの産業集積や各地域に商店街があり、それらと連携して、それぞれの行事への協力、ボランティア学生の派遣などを行う一方、本学の行事へも積極的な参加を促しています。

#### 9 東京オリンピック・パラリンピック

本学は2020年の東京オリンピック・パラリンピックを国際親善促進の重要な機会と捉え、全学を挙げてこれに協力する態勢を整えています。学内で英語ガイド、中国語ガイドの養成をする一方で、地域社会で中国語講習会を催すなど、大学として成しうることを模索しながらこれに全力で当たるつもりです。

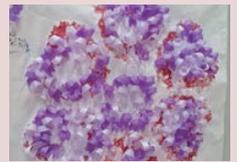


#### 10 千代田学

千代田学は、区内の大学が、千代田区に関する様々な事象を一つの学問として学ぶというものです。東京の中心である千代田区の歴史と文化を再確認し、さらに発展させるために、千代田区が企画・提唱しました。創立以来130年にわたって千代田区で教育・研究を行ってきた本学はその趣旨に深く共鳴し、毎年これに応募し、採択されて、千代田区関連の調査・研究に取り組んでいます。その成果はさまざまなかたちで学生にも及び、本学で学ぶ意義をいっそう明確なものにしています。

#### 6 パープルリボンプロジェクト

「パープルリボンプロジェクト」とは、国際的な女性に対する暴力根絶運動です。「千代田区男女共同参画センター」では、DV（ドメスティックバイオレンス）など、女性に対する暴力や虐待などをなくす運動に取り組んでいます。本学では、この運動に参画し、台紙に学生一人ひとりがパープルリボンを貼り付けて大きな花や模様を形づくる啓蒙ポスターを作成するなど活動に協力しています。小さな取り組みから人権意識の啓蒙へと繋がるように意図しています。



1 『共立女子学園報』

共立女子学園の広報紙『共立女子学園報』（年2回発行）は各回約10万部が発行されますが、そのうち7万部超を卒業生向けに発送しています。他は在学生や全国の高等学校、企業などに送付し、また、オープンキャンパスで本学を訪れた受験生にも配布しています。

学園報を通じて、本学園の多くの関係者の方々に、本学の活動状況や教育ヴィジョンをご理解いただきたいと思います。

時々、卒業生から励ましの言葉や母校への愛着のこもった便りが寄せられます。



2 共立生涯メール

教職員が相互の連絡や資料の受け渡しに利用しているメールを共立Gメールといますが、希望した卒業生も参加することができ、それを特に「共立生涯メール」と呼んでいます。学校から卒業生への「お知らせ」に利用するなど、今後の活用が見込まれています。

3 桜友会

本学の同窓会組織です。全国各都道府県に支部を持っています。学生は入学と同時に学生会員として桜友会に入会し、卒業後は正会員となり、桜友会を通じて本学とのつながりを保つこととなります。全国各地で講演会を主催し、卒業生のみならず、学生のご家族や一般の方々にもお聴きいただいています。

明治39年創刊の機関誌『桜の友』は戦中・戦後の休止期間の後に復刊され、復刊後すでに60号を超えました。卒業生・在学生に配布しています。



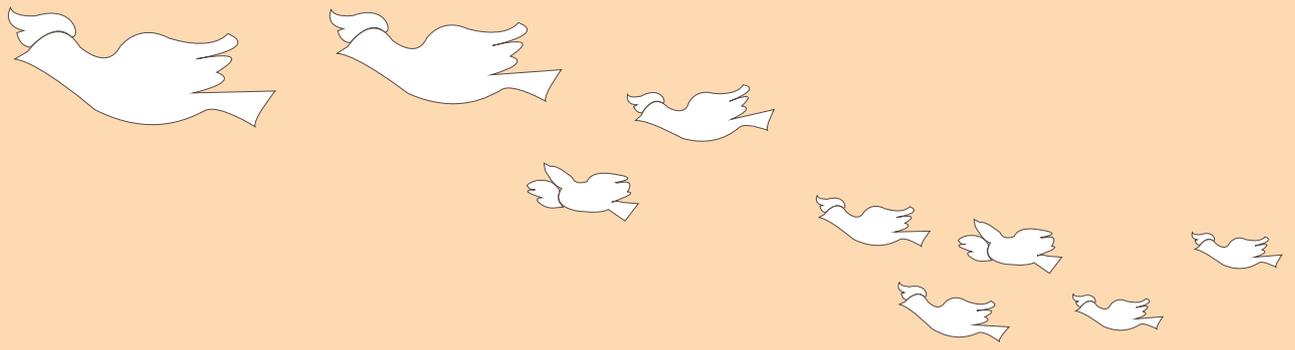
284

4 教員免許状更新講習

平成19年6月の改正教育職員免許法の成立により、平成21年4月1日から導入された教員免許更新制。本学では、卒業生サービスの一環と位置づけながら、卒業生以外の受講希望者をも受け入れることとして、制度導入初年度から開講し、教職課程を有する大学の社会的責務を果たしています。



285



共立女子大学・共立女子短期大学  
〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1 Tel.03-3237-2838  
発行：共立女子学園 総合企画室